



取扱説明書

Home Projector

EF-100W

EF-100B

マニュアル中の表示の意味	5	メニューから設置モードを変更する	31
プロジェクターを使用する前に	8	映像の高さを調整する	32
プロジェクターの各部名称と働き	9	映像の形状を補正する	33
プロジェクターの各部名称 - 前面/上面	9	自動タテ補正	33
プロジェクターの各部名称 - 背面	10	台形補正（ヨコ）ボタンで映像の水平方向のゆがみを補正する	33
プロジェクターの各部名称 - 底面	11	台形補正ボタンで映像のゆがみを補正する	34
プロジェクターの各部名称 - 操作パネル	11	Quick Corner機能で映像のゆがみを補正する	35
プロジェクターの各部名称 - リモコン	12	フォーカスレバーで映像のピントを調整する	37
プロジェクターを準備する	14	映像の大きさを調整する	38
プロジェクターの設置	15	映像のアスペクト比を設定する	39
プロジェクターの設置・取り付け	16	映像のアスペクト比を切り替える	39
投写距離	17	アスペクトモードの種類	40
プロジェクターを接続する	18	各アスペクトモードの投写イメージ	40
メディアストリーミング端末を接続する	18	映像を最適化する（カラーモード）	41
ビデオ機器を接続する	20	カラーモードを変更する	41
ヘッドフォンを接続する	21	カラーモードの種類	41
Bluetooth®オーディオ機器を接続する	22	映像の光量を調整する	41
Bluetoothの仕様	23	シャープネスを調整する	43
リモコンに電池を取り付ける	24	映像の色合いを調整する	44
リモコンを操作する	24	色温度を調整する	44
プロジェクターの基本機能を使用する	26	RGBを調整する（オフセット・ゲイン）	44
プロジェクターの電源を入れる	27	色相、彩度、明度を調整する	45
プロジェクターの電源を切る	29	ガンマを調整する	46
メニューの言語を選択する	30	光源の明るさを設定する	48
設置モードを選択する	31	プロジェクターの設定をメモリーに保存する	49
		音量ボタンで音量を調整する	50
		サウンドモードを切り替える	51
		サウンドモードの種類	51

プロジェクターの便利な機能 52

HDMIリンク機能	53
HDMIリンク機能を使って接続機器を操作する.....	53
映像と音声を一時的に遮断する（A/Vミュート）	55
セキュリティー機能.....	56
操作パネルのボタン操作を制限する.....	56
操作ボタンロックを解除する	56
セキュリティーケーブルを取り付ける	57

メニューの設定 58

プロジェクターメニューを操作する.....	59
ソフトキーボードを操作する	60
ソフトキーボードで入力可能な文字.....	60
画質・映像メニュー	61
設定メニュー	63
情報メニュー	66
情報メニュー - プロジェクター情報.....	66
初期化メニュー	68

プロジェクターをメンテナンスする 69

プロジェクターのメンテナンス.....	70
投写窓を清掃する.....	71
本機を清掃する	72
エアフィルターと吸排気口をメンテナンスする.....	73
エアフィルターと吸排気口を清掃する.....	73
エアフィルターを交換する	73

困ったときに 75

トラブルの対処方法.....	76
インジケーターの見方.....	77
電源に関するトラブル.....	79
電源が入らない.....	79
予期せず電源が切れる.....	79
映像に関するトラブル.....	80
映像が表示されない	80
映像がゆがむ.....	81
映像がぼやける	81
映像の一部が表示されない.....	81
映像にノイズが入る、乱れる	82
映像の明るさや色合いが違う	82
映像が上下反転して表示される	83
音声に関するトラブル.....	84
Bluetoothに関するトラブル	85
リモコン操作に関するトラブル.....	86
HDMIリンクに関するトラブル	87

付録 88

オプション・消耗品一覧.....	89
設置用金具.....	89
消耗品	89
スクリーンサイズと投写距離	90
対応解像度	92
本機仕様	93
接続端子.....	93
外形寸法図	94

安全規格対応シンボルマークと説明.....	95
レーザー製品を安全にお使いいただくために	97
レーザー警告ラベル	97
用語解説	98
一般のご注意	99
使用限定について	99
本機を日本国外へ持ち出す場合の注意.....	99
瞬低（瞬時電圧低下）基準について.....	99
JIS C 61000-3-2適合品.....	99
商標について	99
ご注意.....	100
著作権について.....	100

マニュアル中の表示の意味

安全に関する表示

本製品および取扱説明書には、製品を安全にお使いいただくために絵表示が使われています。

人体への危害や財産への損害を防ぐために、次の絵表示で表記された説明は、内容をよくお読みいただいた上で、説明に従ってお取り扱いください。

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する表示

 注意	注意して取り扱わないと、本機の故障や損傷の原因となるおそれがある内容を記載しています。
	知っておくと便利な関連情報を記載しています。
 ボタン	リモコンまたは操作パネルのボタン名称を示しています。 例：  ボタン
[メニュー名/設定名]	プロジェクターのメニューや設定の名称を示しています。 例： [画質・映像] メニューを選択する  [画質・映像] > [色設定]
	関連事項を記載しているページを示しています。
	プロジェクターのメニューの階層を示しています。

マニュアルの使い方と情報の探し方

PDFマニュアルでは、探したい情報のキーワードから該当箇所を検索したり、しおりから直接ジャンプしたりすることができます。また、必要なページだけ印刷することもできます。ここでは、PDFマニュアルをコンピュータのAdobe Reader Xで開いた場合の使い方を説明します。

キーワードで検索する

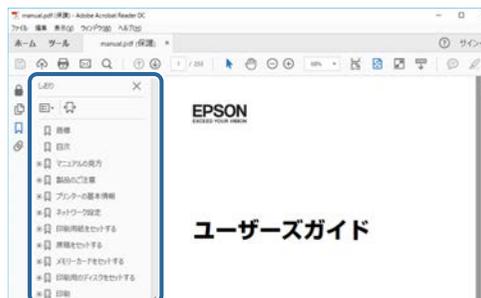
[編集] メニューの [高度な検索] をクリックします。検索ボックスに探したい情報のキーワード（語句）を入力して、[検索] をクリックします。キーワードの該当箇所が一覧で表示されます。表示された文字列をクリックすると、該当ページにジャンプします。



しおりから直接ジャンプする

タイトルをクリックするとそのページにジャンプします。[+] または [>] をクリックすると下の階層のタイトルが表示されます。ジャンプ前のページに戻りたいときは、キーボードで以下の操作をします。

- Windows : [Alt] キーを押したまま [←] キーを押します。
- Mac OS : commandキーを押したまま [←] キーを押します。



必要なページだけ印刷する

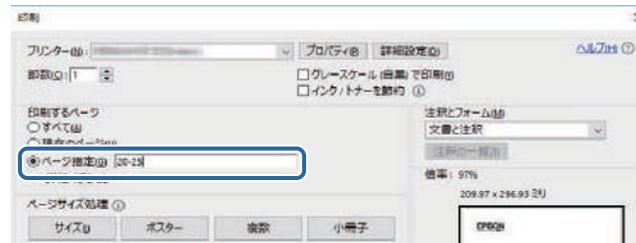
紙で読みたいページだけを抜き出して印刷できます。[ファイル]メニューの[印刷]をクリックして、[印刷するページ]の[ページ指定]で印刷したいページを指定します。

- 連続したページの指定は、開始ページと終了ページの間にハイフンを入れます。

例：20-25

- 連続していない複数ページの指定は、ページをカンマで区切ります。

例：5,10,15



プロジェクターを使用する前に

本機の各部名称について説明します。

▶ 関連項目

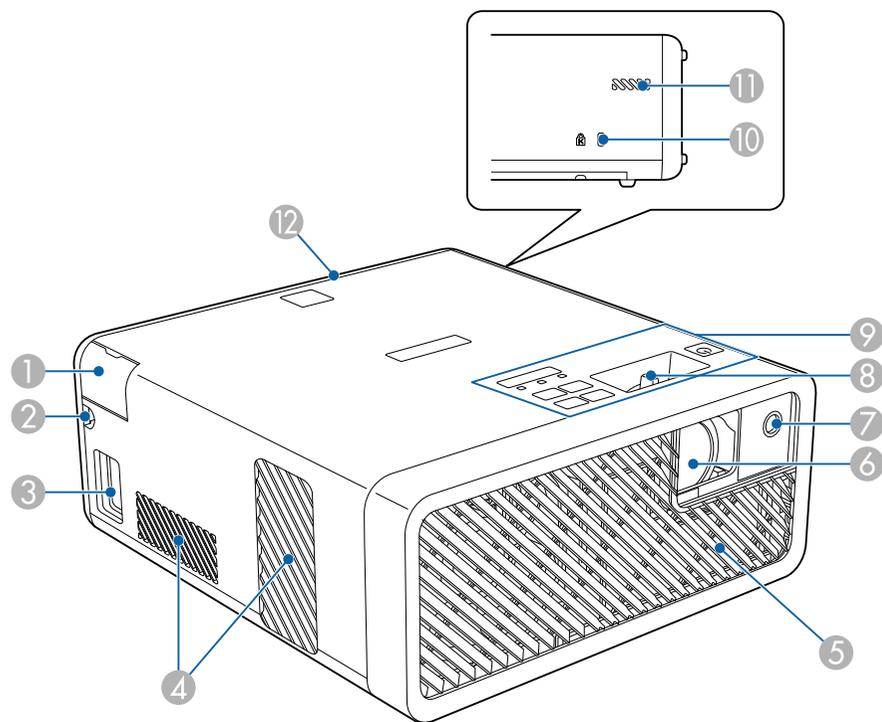
- ・ 「プロジェクターの各部名称と働き」 [p.9](#)

本機の各部名称とその働きについて説明します。

▶ 関連項目

- ・「プロジェクターの各部名称 - 前面/上面」 p.9
- ・「プロジェクターの各部名称 - 背面」 p.10
- ・「プロジェクターの各部名称 - 底面」 p.11
- ・「プロジェクターの各部名称 - 操作パネル」 p.11
- ・「プロジェクターの各部名称 - リモコン」 p.12

プロジェクターの各部名称 - 前面/上面



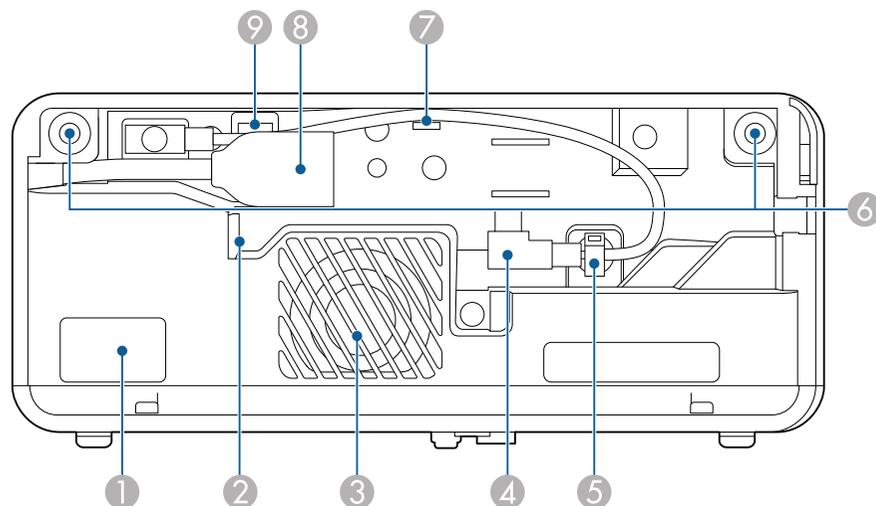
名称	働き
① Audio Out端子カバー	ヘッドフォンを接続するときに開きます。
② ケーブル配線口	ビデオ機器を接続するときに、HDMIケーブルを通します。
③ 電源端子	電源コードを接続します。
④ 排気口	本機内部を冷却した空気の吐き出し口です。 ⚠ 注意 投写中は手や顔を排気口に近づけたり、熱による悪影響を受けるものを排気口の近くに置かないでください。排気口から温風が出るため、やけどや変形、事故の原因となります。
⑤ 吸気口（エアフィルター）	本機内部を冷却するための空気を取り込みます。
⑥ 投写窓	内部の投写レンズから映像を投写します。
⑦ リモコン受光部	リモコン信号を受信します。
⑧ フォーカスレバー	映像のピントを合わせます。
⑨ 操作パネル	本機の操作をします。
⑩ セキュリティースロット	Kensington社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応したセキュリティースロットです。
⑪ 吸気口	本機内部を冷却するための空気を取り込みます。
⑫ リアカバー	メディアストリーミング端末やビデオ機器を接続するときに取り外します。

▶ 関連項目

- ・「リモコンを操作する」 p.24
- ・「プロジェクターの各部名称 - 操作パネル」 p.11

- ・「フォーカスレバーで映像のピントを調整する」 [p.37](#)
- ・「ビデオ機器を接続する」 [p.20](#)
- ・「ヘッドフォンを接続する」 [p.21](#)
- ・「セキュリティーケーブルを取り付ける」 [p.57](#)

プロジェクターの各部名称 - 背面



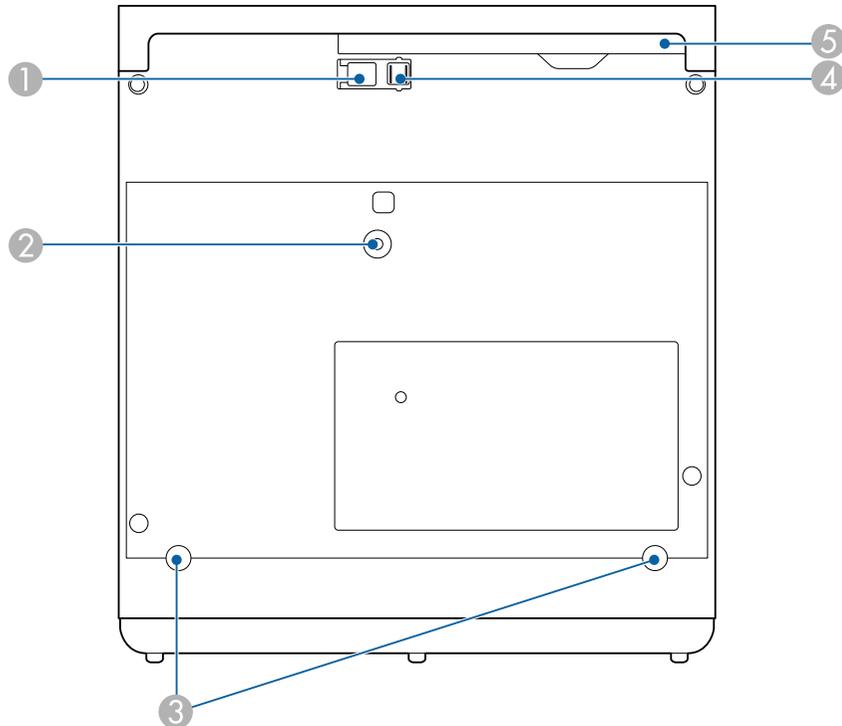
名称	働き
⑥ リアカバースロット	リアカバーを取り付けるためのスロットです。
⑦ ケーブルフック	USB給電ケーブルをここに通します。
⑧ HDMI端子 (延長ケーブル付き)	メディアストリーミング端末やHDMI対応のビデオ機器の信号を入力します。 本機はHDCPに対応しています。 延長ケーブルを取り外すことはできません。
⑨ Service端子	通常は使用しません。

▶ 関連項目

- ・「リモコンを操作する」 [p.24](#)
- ・「ビデオ機器を接続する」 [p.20](#)
- ・「メディアストリーミング端末を接続する」 [p.18](#)

名称	働き
① リモコン受光部	リモコン信号を受信します。
② 排気口	メディアストリーミング端末を冷却するための空気の吐き出し口です。
③ スピーカー	音声を出力します。
④ USB給電ケーブル	メディアストリーミング端末に電力を供給します。
⑤ ケーブルクランプ	USB給電ケーブルをここに通して固定します。

プロジェクターの各部名称 - 底面



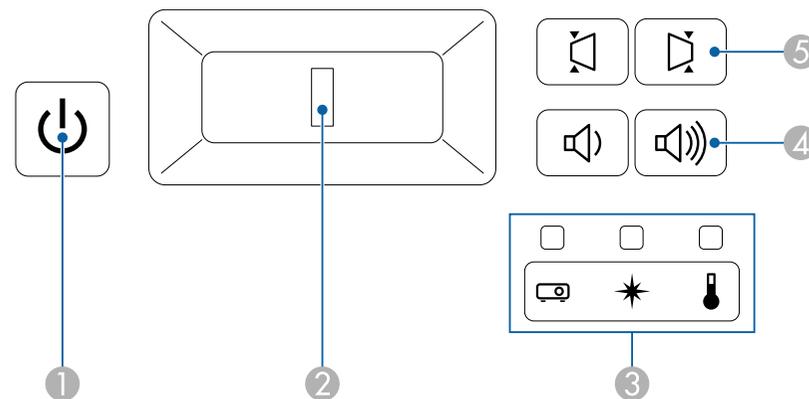
名称	働き
① フットレバー	フットレバーを押して、フロントフットを伸縮させます。
② 天吊り / 床置き金具固定部、または配線ダクト取付金具固定部	オプションの金具をここに取り付けます。

名称	働き
③ リアフット (天吊り / 床置き金具固定部、または配線ダクト取付金具固定部)	2つのフットを反時計回りに回して外し、オプションの金具を取り付けます。
④ フロントフット	机上設置時に、フットを伸ばして映像の高さを調整します。
⑤ エアフィルターカバー	エアフィルターの清掃・交換時に開閉します。

▶ 関連項目

- ・「エアフィルターと吸排気口をメンテナンスする」 [p.73](#)
- ・「映像の高さを調整する」 [p.32](#)

プロジェクターの各部名称 - 操作パネル



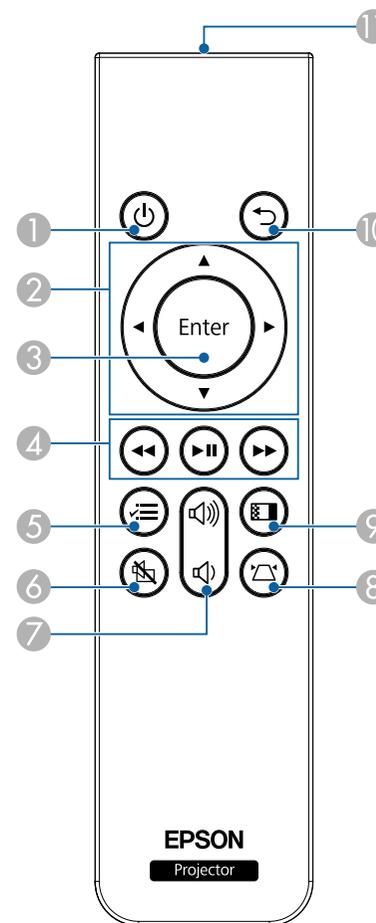
名称	働き
① 電源ボタン	本機の電源をオン/オフします。

名称	働き
② フォーカスレバー	映像のピントを合わせます。
③ インジケーター	本機の状態を表示します。
④ 音量上げ/下げボタン 	スピーカーやヘッドフォンの音量を調整します。 本機に接続しているBluetoothオーディオ機器の音量も調整できます。
⑤ 台形補正 (ヨコ) ボタン 	「台形補正」画面を表示して、横方向の台形ゆがみを補正します。

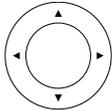
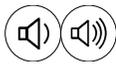
▶ 関連項目

- ・「インジケーターの見方」 [p.77](#)
- ・「台形補正 (ヨコ) ボタンで映像の水平方向のゆがみを補正する」 [p.33](#)
- ・「プロジェクターの電源を入れる」 [p.27](#)
- ・「フォーカスレバーで映像のピントを調整する」 [p.37](#)
- ・「音量ボタンで音量を調整する」 [p.50](#)

プロジェクターの各部名称 - リモコン



名称	働き
① 電源ボタン 	本機の電源をオン/オフします。

名称	働き
② 上下左右ボタン 	メニューの表示中に押すと、メニュー項目を選択します。
③ 決定ボタン 	メニューの表示中に押すと、選択項目を決定して、次の階層に進みます。
④ 再生操作ボタン 	メディアストリーミング端末やHDMI CEC規格対応のビデオ機器を操作します。
⑤ メニューボタン 	メニュー画面を表示/終了します。投写画面に表示されるメニューを使って、本機の各種動作を設定します。 約2秒間押すと、[Bluetooth] メニューを表示します。
⑥ AVミュートボタン 	映像と音声を一時的に遮断します。
⑦ 音量上げ/下げボタン 	スピーカーやヘッドフォンの音量を調整します。本機に接続しているBluetoothオーディオ機器の音量も調整できます。
⑧ 台形補正ボタン 	[台形補正] 調整画面、または [Quick Corner] 選択画面を表示します。
⑨ カラーモードボタン 	カラーモードを変更します。

名称	働き
⑩ 戻るボタン 	実行中の機能を終了します。 メニューの表示中に押すと、前のメニュー階層に戻ります。
⑪ リモコン発光部	リモコン信号を出力します。

▶ 関連項目

- ・「映像を最適化する (カラーモード)」 [p.41](#)
- ・「台形補正ボタンで映像のゆがみを補正する」 [p.34](#)
- ・「Quick Corner機能で映像のゆがみを補正する」 [p.35](#)
- ・「プロジェクターの電源を入れる」 [p.27](#)
- ・「音量ボタンで音量を調整する」 [p.50](#)
- ・「映像と音声を一時的に遮断する (AVミュート)」 [p.55](#)
- ・「プロジェクターメニューを操作する」 [p.59](#)

プロジェクターを準備する

プロジェクターの準備方法を説明します。

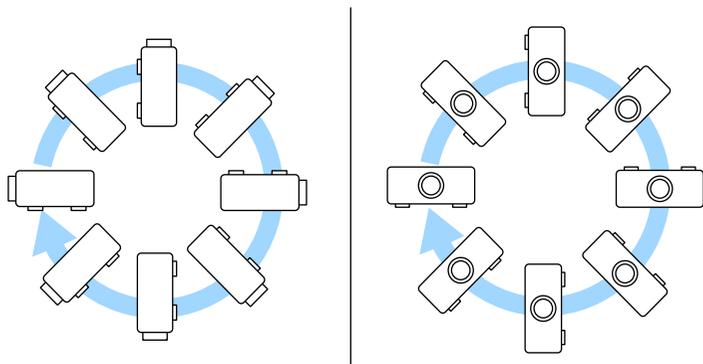
▶ 関連項目

- ・ 「プロジェクターの設置」 [p.15](#)
- ・ 「プロジェクターを接続する」 [p.18](#)
- ・ 「リモコンに電池を取り付ける」 [p.24](#)

平らな場所にプロジェクターを置いて映像を投写します。

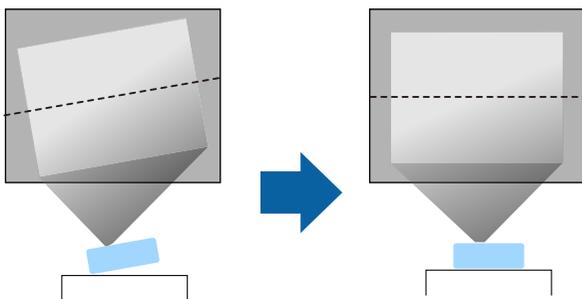
プロジェクターを常に特定の位置に固定して使用することもできます。天井や床、壁に取り付けるときは、オプションの天吊り / 床置き金具が必要です。

本機はさまざまな角度で映像を投写できます。垂直、水平方向ともに設置角度に制限はありません。

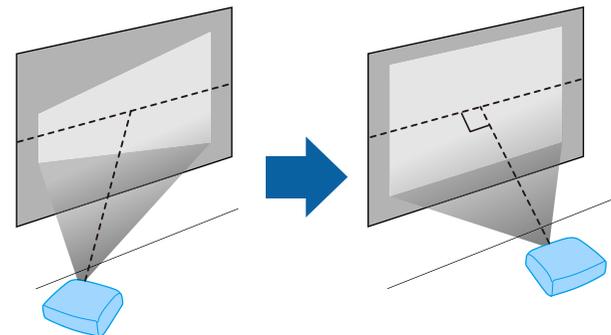


プロジェクターの設置位置を決めるときは、以下の点に注意してください。

- プロジェクターは水平で安定した場所に置くか、本製品に対応した金具を使用して取り付けます。



- 通気のためにプロジェクターの周囲に十分なスペースを確保します。通気の妨げになるものをプロジェクター上面や周囲に置かないでください。
- 投写面に対してプロジェクターを平行に設置します。



投写面に対して平行に設置できないときは、台形補正機能を使って映像を補正します。

⚠ 警告

- 天井からプロジェクターを吊り下げるときは、天吊り金具の取り付けが必要となります。プロジェクターを正しく設置しないと、落下により破損やけがの原因となることがあります。
- プロジェクターの天吊り固定部に、ネジゆるみ止め用接着剤・潤滑剤・油などを使用しないでください。プロジェクターにそれらの溶剤が付着すると、プロジェクターのケースが割れ、天吊り金具からプロジェクターが落下するおそれがあります。
- 本機の吸気口・排気口をふさがないでください。吸気口・排気口をふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- 不安定な場所や荷重範囲を超える場所には設置しないでください。落下や転倒によりけがや事故の原因となります。
- 高い場所に設置するときは、地震などの非常時の安全確保と事故防止のため、ベルトなどを用いて落下防止策を施してください。正しく設置しないと、落下によりけがや事故の原因となります。
- 湿気やホコリの多い場所・調理台、台所や加湿器のそばなど、油煙・湯気が当たるような場所に設置しないでください。火災・感電の原因となることがあります。また、油によりプロジェクターの外装ケースが劣化し、天吊り設置の場合にプロジェクターが落下するおそれがあります。

注意

- 本機を標高1,500m以上の場所で使用するときは、[高地モード]を[オン]にして、本機の内部温度が適切に調節されるようにしてください。
☛ [設定] > [設置] > [高地モード]
- 湿気やホコリの多い場所、たばこなどの煙が当たる場所への設置は、できるだけ避けてください。
- 設置環境によってプロジェクター内部の温度が高くなるときは、[接続デバイス冷却]でメディアストリーミング端末冷却用ファンの回転数を調整してください。
☛ [設定] > [動作] > [接続デバイス冷却]

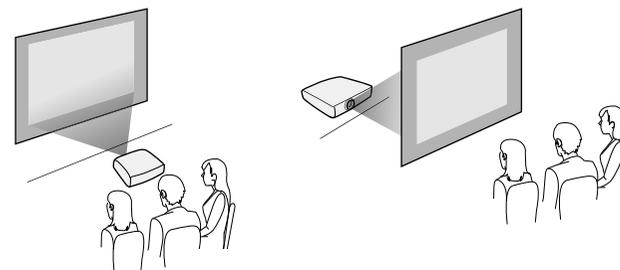
▶ 関連項目

- ・「プロジェクターの設置・取り付け」 p.16
- ・「投写距離」 p.17
- ・「映像の形状を補正する」 p.33
- ・「設定メニュー」 p.63
- ・「映像の高さを調整する」 p.32
- ・「映像の大きさを調整する」 p.38
- ・「フォーカスレバーで映像のピントを調整する」 p.37

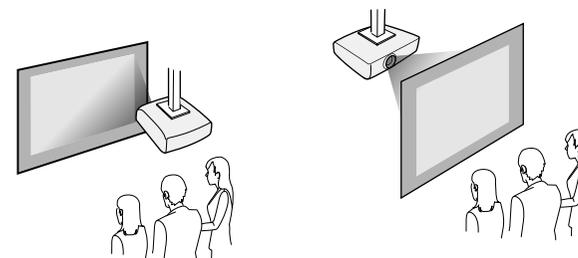
プロジェクターの設置・取り付け

本機は以下の方法で設置・取り付けできます。

フロント/リア



フロント・天吊り/リア・天吊り

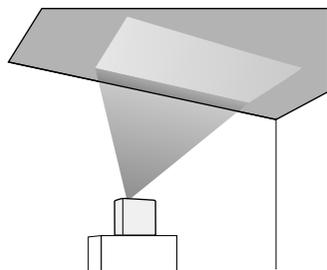




天井吊り投写・リア投写するときは、[設置モード]を変更します。また、必要に応じて[OSD回転]の設定を変更してください。

☞ [設定] > [設置] > [OSD回転]

天井投写



⚠ 警告

本機の投写窓付近を物で覆ったり、ふさいだりしないでください。内部に熱がこもり、火災や破損の原因となることがあります。

注意

天井投写するときは、リアカバーが正しく取り付けられていることを確認してから設置してください。

▶▶ 関連項目

- ・「設置モードを選択する」 p.31

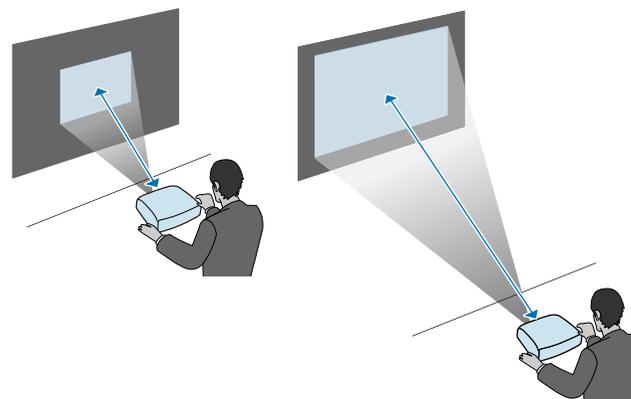
投写距離

本機からスクリーンまでの距離に応じて、映像の大きさが決まります。本機をスクリーンから遠ざけるほど、投写される映像は大きくなります。

下図を参考にして、本機からスクリーンまでのおおよその距離を決めてください。



台形補正後は、映像が少し小さくなります。



▶▶ 関連項目

- ・「スクリーンサイズと投写距離」 p.90

プロジェクターと映像機器の接続方法を説明します。

注意

接続する前に、使用するケーブルのコネクターの形状と向きを確認してください。形状が合わないコネクターを無理に端子に押し込まないでください。お使いの機器、プロジェクターの破損や故障の原因となります。



本機に同梱されているケーブルは、『かんたんスタートガイド』で確認できます。同梱されていないケーブルは、オプション品または市販品をお買い求めください。

▶ 関連項目

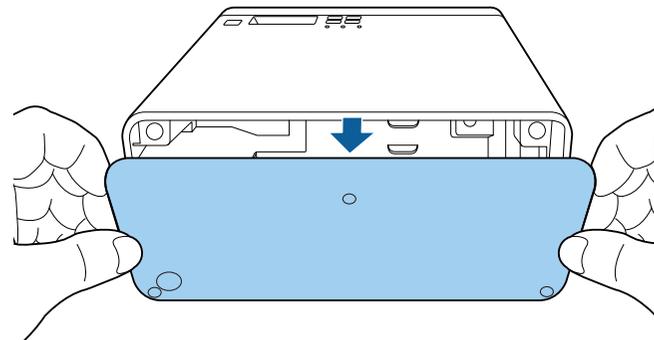
- ・「メディアストリーミング端末を接続する」 p.18
- ・「ビデオ機器を接続する」 p.20
- ・「ヘッドフォンを接続する」 p.21
- ・「Bluetooth®オーディオ機器を接続する」 p.22

メディアストリーミング端末を接続する

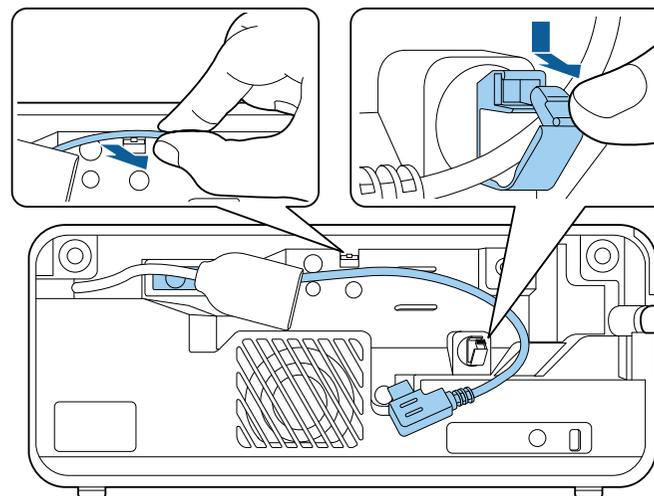
メディアストリーミング端末を本機のHDMI端子に接続します。

USB給電ケーブルを接続すると、プロジェクターからメディアストリーミング端末に電力を供給できます。

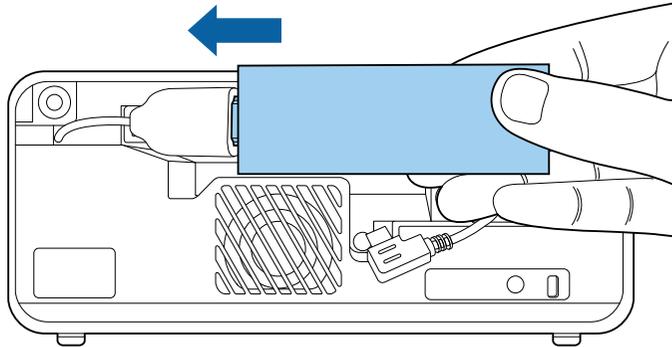
- 1 リアカバーを取り外します。



- 2 USB給電ケーブルをケーブルフックとケーブルクランプから取り外します。

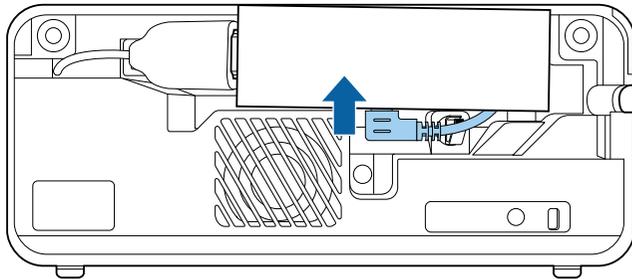


- 3** メディアストリーミング端末をHDMI端子に接続します。

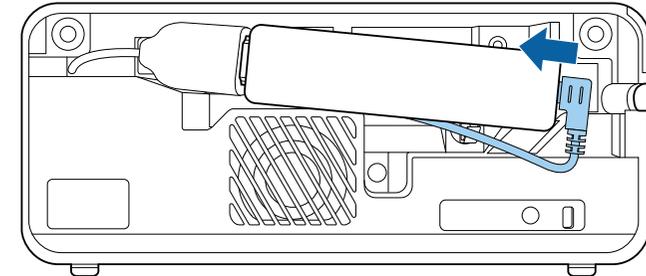


- 4** USB給電ケーブルをメディアストリーミング端末のUSB端子（Bタイプ）に接続します。

- USB端子が下側にある場合

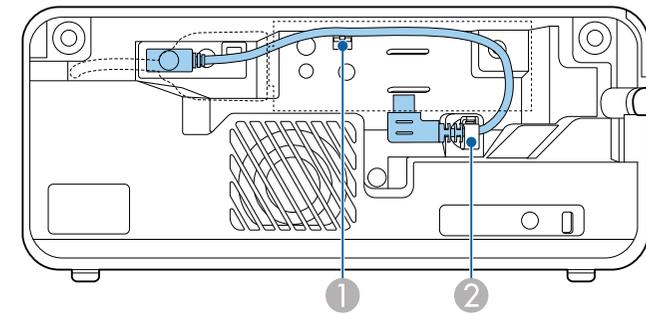


- USB端子が右側にある場合

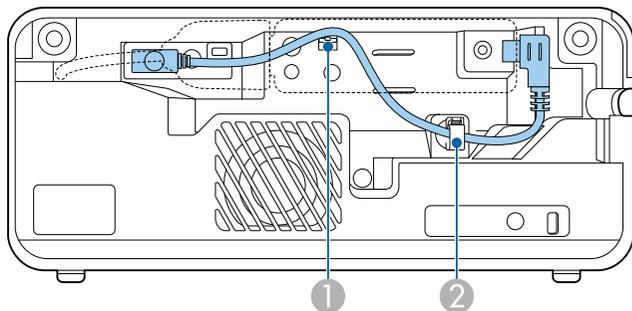


- 5** USB給電ケーブルをケーブルフックとケーブルクランプに通して、ケーブルクランプを閉じて固定します。

- USB端子が下側にある場合

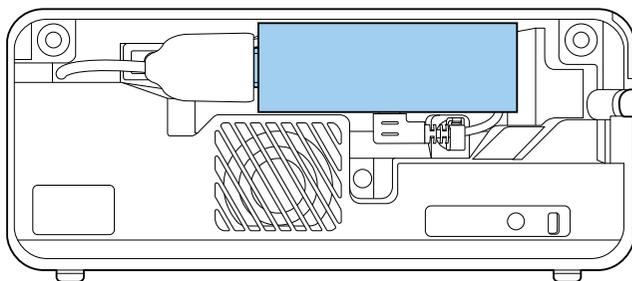


- USB端子が右側にある場合

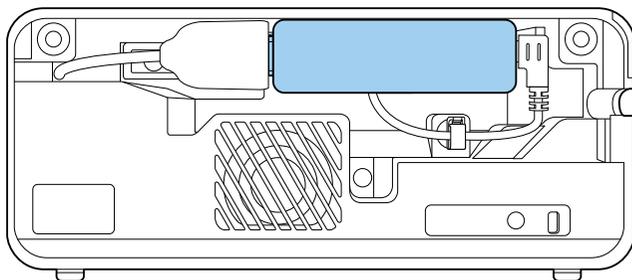


- 6** メディアストリーミング端末が下図のとおりセットされていることを確認します。

- USB端子が下側にある場合



- USB端子が右側にある場合



- 7** リアカバーを取り付けます。



お使いのメディアストリーミング端末がHDMI CEC規格に対応しているときは、機能のいくつかを本機のリモコンから操作できます。詳しくはメディアストリーミング端末の取扱説明書をご覧ください。

ビデオ機器を接続する

HDMI端子を搭載したビデオ機器があれば、HDMIケーブルでプロジェクターとビデオ機器を接続して映像と音声を出力できます。

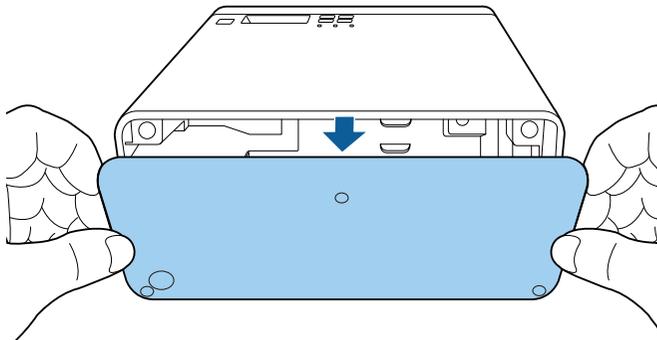
注意

あらかじめビデオ機器の電源を切ってください。ビデオ機器の電源が入った状態で接続すると、故障の原因となります。



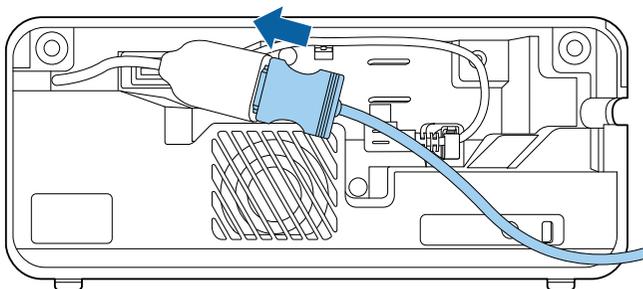
- 接続する機器の端子が特有の形状をしているときは、その機器に同梱またはオプションのケーブルで接続してください。
- ビデオ機器によっては、数種類の信号を出力できます。出力できる信号の種類は、お使いのビデオ機器に同梱の取扱説明書で確認してください。

- 1** リアカバーを取り外します。

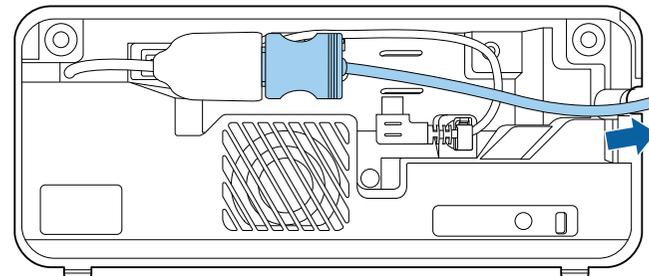


- 2** ビデオ機器のHDMI出力端子にHDMIケーブルを接続します。

- 3** ケーブルのもう一方のコネクターを本機のHDMI端子に接続します。



- 4** HDMIケーブルを下図のとおりケーブル配線口に通します。



- 5** リアカバーを取り付けます。

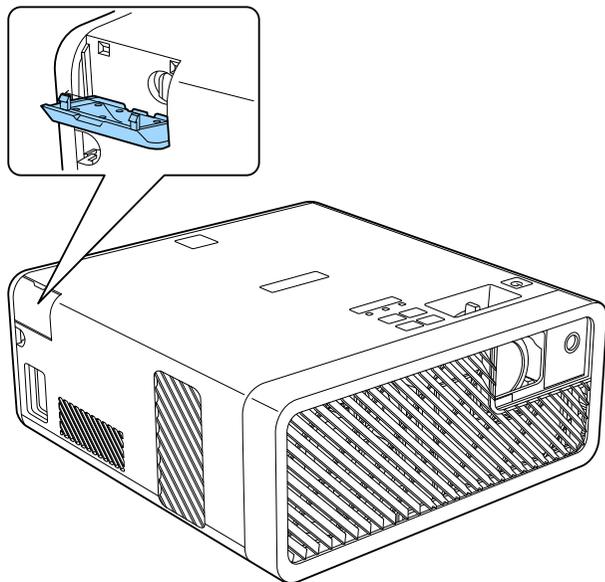
ヘッドフォンを接続する

本機のAudio Out端子にはヘッドフォンを接続できます。本機のリモコンで音量を制御できます。

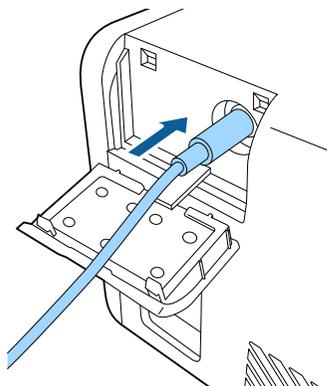
注意

本機のAudio Out端子は3極プラグのヘッドフォン専用です。3極プラグ以外のヘッドフォンを接続すると、音声は正常に再生されない可能性があります。

- 1 Audio Out端子カバーを開けます。



- 2 ヘッドフォンのケーブルを本機のAudio Out端子に接続します。



⚠ 注意

初めから音量を上げすぎないでください。突然大きな音が出て、聴力障害の原因となることがあります。

電源を切る前に音量を下げておき、電源を入れた後で徐々に上げてください。

Bluetooth®オーディオ機器を接続する

Bluetooth対応（A2DP準拠）のスピーカーやヘッドフォンを接続して、メディアストリーミング端末やビデオ機器の音声を出力できます。



- Bluetoothオーディオ機器で再生される音声には遅延が生じます。

- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。

- 2 リモコンの  ボタンを約2秒間押します。
[Bluetooth] 画面が表示されます。



Bluetooth画面は [設定] メニューからも表示できます。

 [設定] > [サウンド] > [Bluetooth]

3 [Bluetoothオーディオ] を [オン] に設定します。



4 接続するBluetoothオーディオ機器を、ペアリング可能な設定にします。詳しくはBluetoothオーディオ機器の取扱説明書をご覧ください。

5 [Bluetooth機器検索] を選択して、**Enter** ボタンを押します。
接続可能な機器の一覧が表示されます。

6 接続するBluetoothオーディオ機器を選択して、**Enter** ボタンを押します。

7 **Exit** ボタンまたは **Back** ボタンを押してメニューを終了します。

本機の電源を入れ直したときは、最後に接続した機器に自動的に接続します。接続機器を切り替えるときは、手順4から行います。

▶ 関連項目

- ・「Bluetoothの仕様」 p.23

Bluetoothの仕様

バージョン	Bluetooth Ver. 3.0
出力	Class 2
通信可能距離	約10m
対応プロファイル	A2DP
コンテンツ保護	SCMS-T方式
使用周波数	2.4 GHz帯 (2.402GHz - 2.480GHz)
対応コーデック	SBC、Qualcomm® aptX™ audio

警告

医療機器、自動ドアや火災報知機などの自動制御機器の近くで使用しないでください。電磁妨害による誤動作や事故の原因となります。



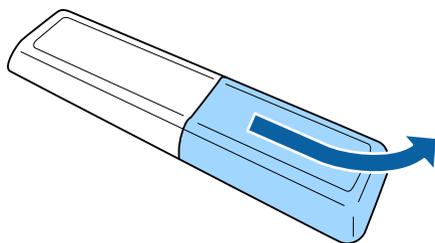
- ・著作権保護 (SCMS-T) に対応しているBluetooth機器を接続してください。
- ・機器の規格や種類によっては接続できないことがあります。
- ・通信可能距離内で接続しているときでも、電波状況によっては接続が切れることがあります。
- ・Bluetoothの通信方式は無線LAN (IEEE802.11b/g) や電子レンジと同一の周波数帯 (2.4 GHz) を使用しています。そのため、同時に使用すると電波干渉が発生し、映像や音声途切れたり接続できないことがあります。同時に使用したいときは、Bluetooth機器をこれらの機器の近くで使用しないでください。
- ・複数のBluetooth機器を同時に接続することはできません。

本機に付属の単4形電池2個をリモコンに取り付けます。

注意

電池を取り扱う前に、『安全にお使いいただくために』を必ずお読みください。

- 1 電池カバーを外します。

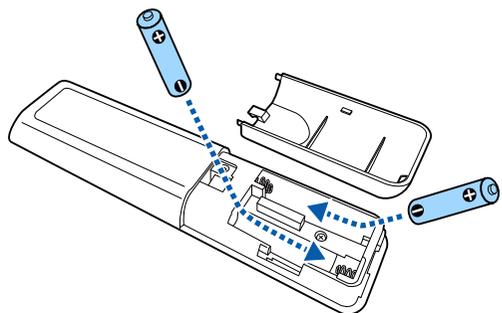


- 2 古い電池が入っていれば取り外します。



使用済みの電池は、地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。

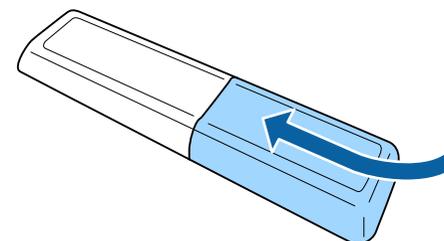
- 3 電池の+と-の向きを確認してリモコンにセットします。



警告

電池ホルダー内の表示を確認して、(+) (-) を正しく入れてください。電池の使い方を誤ると、電池の破裂・液もれにより、火災・けが・製品腐食の原因となることがあります。

- 4 電池カバーを閉め、カチッと音がするまで押し込みます。



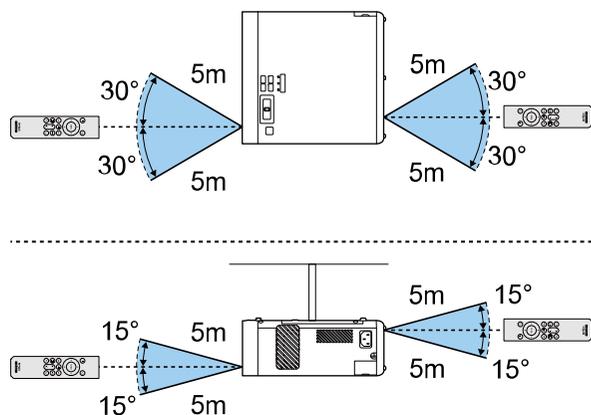
▶ 関連項目

- ・「リモコンを操作する」 [p.24](#)

リモコンを操作する

リモコンを使用して、室内の離れた場所からプロジェクターを制御できます。

リモコンは、本機のリモコン受光部に対して下図の角度で使用してください。



蛍光灯の強い光や直射日光が当たる環境ではリモコンを使用しないでください。プロジェクターが操作に反応しないことがあります。リモコンを長期間使用しないときは、電池を取り外しておきます。

プロジェクターの基本機能を使用する

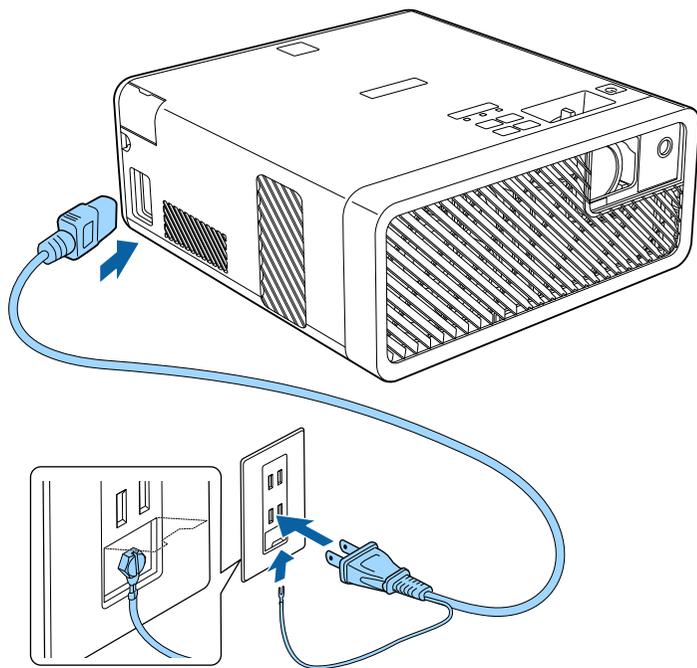
プロジェクターの基本機能を説明します。

▶ 関連項目

- ・ 「プロジェクターの電源を入れる」 [p.27](#)
- ・ 「プロジェクターの電源を切る」 [p.29](#)
- ・ 「メニューの言語を選択する」 [p.30](#)
- ・ 「設置モードを選択する」 [p.31](#)
- ・ 「映像の高さを調整する」 [p.32](#)
- ・ 「映像の形状を補正する」 [p.33](#)
- ・ 「フォーカスレバーで映像のピントを調整する」 [p.37](#)
- ・ 「映像の大きさを調整する」 [p.38](#)
- ・ 「映像のアスペクト比を設定する」 [p.39](#)
- ・ 「映像を最適化する（カラーモード）」 [p.41](#)
- ・ 「シャープネスを調整する」 [p.43](#)
- ・ 「映像の色合いを調整する」 [p.44](#)
- ・ 「光源の明るさを設定する」 [p.48](#)
- ・ 「プロジェクターの設定をメモリーに保存する」 [p.49](#)
- ・ 「音量ボタンで音量を調整する」 [p.50](#)
- ・ 「サウンドモードを切り替える」 [p.51](#)

プロジェクターの電源を入れた後、メディアストリーミング端末やビデオ機器の電源を入れます。

- 1 本機とコンセントを電源コードで接続します。



⚠ 警告

必ず接地接続を行ってください。接地接続は必ず、電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、接地接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。

本機の電源インジケータが青色に点灯します（スタンバイ状態）。スタンバイ状態は、プロジェクターに電力が供給されていて、電源が入っていない状態です。

- 2 操作パネルまたはリモコンの電源ボタンを押して本機の電源を入れます。

ステータスインジケータが青色に点滅します（ウォームアップ状態）。ウォームアップが終わると、ステータスインジケータが青色に点灯します。

最初に本機の電源を入れたときには、[ウェルカムガイド]が表示されます。[ウェルカムガイド]は本機の特長や使い方を紹介します。



[ウェルカムガイド]をもう一度見たいときは、[設定]メニューで[ウェルカムガイド]を選択します。

☛ [設定] > [表示] > [ウェルカムガイド]

⚠ 警告

- 投写中は本機のレンズをのぞきこまないでください。目に損傷を与えるおそれがあります。特にお子様の行動にご注意ください。
- 本機から離れた場所でリモコンを使って電源を入れるときは、レンズをのぞいている人がいないことを確認してください。
- 投写中に本などで投写光を遮らないでください。投写光を遮ると、光の当たる部分が高温になって溶けたり、やけどや火災の原因になります。また、反射した光でレンズ部が高温になり、本機が故障する原因となります。投写を中断するときはA/Vミュート機能を使うか、本機の電源を切ってください。



- [設定] メニューの [ダイレクトパワーオン] が [オン] に設定されているときは、本機に電源コードを接続したときに自動で電源が入ります。停電復旧時などにコンセントに電源プラグが差し込まれた状態になっていると、本機の電源がオンになりますのでご注意ください。
 - ☛ [設定] > [動作] > [ダイレクトパワーオン]
- チャイルドロック機能を使うと、お子様が誤って電源を入れないように、操作パネルでの電源オンをロックできます。操作ボタンロック機能を使うと、操作パネルでのボタン操作を制限できます。
 - ☛ [設定] > [動作] > [チャイルドロック]
 - ☛ [設定] > [動作] > [操作ボタンロック]
- 標高1,500m以上の場所でお使いのときは、[高地モード] を [オン] に設定します。
 - ☛ [設定] > [設置] > [高地モード]

▶ 関連項目

- 「設定メニュー」 [p.63](#)

使用後にプロジェクターの電源を切ります。

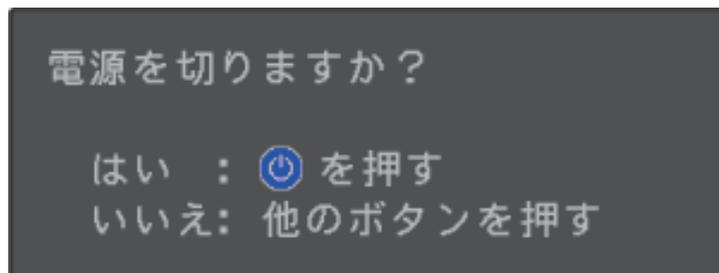


- ・本機を長くお使いいただくために、使用しないときは本機の電源を切ってください。光源の寿命は、環境条件や使用状況によって異なります。投写映像の明るさは、使用時間の経過にもなって低下します。

▶ 関連項目

- ・「設定メニュー」 p.63

- 1** 操作パネルまたはリモコンの電源ボタンを押します。
シャットダウン確認画面が表示されます。



- 2** 再度電源ボタンを押します。（電源を切らないときは、他のボタンを押します。）
光源がオフになり、ステータスインジケータが消灯します。
- 3** 本機を搬送または保管するときは、電源インジケータが青色に点灯していることを確認してから電源コードを抜いてください。



[スタンバイ時USB給電] を [オン] に設定すると、本機がスタンバイ状態（電源オフ）のときもメディアストリーミング端末に電力を供給できます。メディアストリーミング端末の起動を早め、ファームウェアの自動更新を可能にします。

☛ [設定] > [動作] > [スタンバイ時USB給電]

メニューおよびメッセージの言語を変更します。

- 1 本機の電源を入れます。
- 2 リモコンの $\left(\equiv\right)$ ボタンを押します。
- 3 [設定] を選択して、 Enter ボタンを押します。



- 4 [言語] を選択して、 Enter ボタンを押します。
- 5 使用する言語を選択して、 Enter ボタンを押します。
- 6 $\left(\equiv\right)$ ボタンまたは $\left(\leftarrow\right)$ ボタンを押してメニューを終了します。

プロジェクターの設置方法によって、設置モードを変更します。

- ・ [フロント] (初期設定) : 机上に設置して、スクリーンの正面から投写します。
- ・ [フロント・上下反転] : 天吊りまたは壁掛け設置して、映像を上下反転して投写します。
- ・ [リア] : リアスクリーンの裏側から映像を左右反転して投写します。
- ・ [リア・上下反転] : 天吊りまたは壁掛け設置して、リアスクリーンの裏側から映像を上下左右反転して投写します。

▶ 関連項目

- ・ 「メニューから設置モードを変更する」 [p.31](#)
- ・ 「プロジェクターの設置・取り付け」 [p.16](#)

メニューから設置モードを変更する

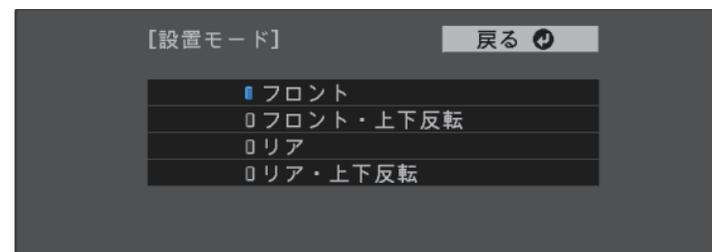
メニューから設置モードを変更して、映像を上下左右反転します。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの  ボタンを押します。

- 3** [設定] を選択して、 ボタンを押します。



- 4** [設置] > [設置モード] の順に選択して、 ボタンを押します。
- 5** お使いの環境に合わせた設置モードを選択して、 ボタンを押します。

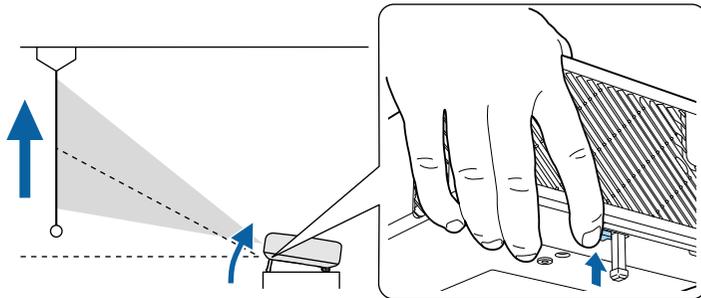


- 6**  ボタンまたは  ボタンを押してメニューを終了します。

机などの平らな場所に置いて投写するときは、プロジェクターのフットを使って高さを調整します。

傾斜角度が大きくなると、ピントが合いにくくなります。傾斜角度が小さくなるようにプロジェクターを設置してください。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** フットレバーを押して、フロントフットを伸縮させます。



プロジェクターからフロントフットが伸びます。

11度まで投写角度を調整できます。

- 3** フットレバーから指を離してフロントフットを固定します。

投写映像がゆがむときは、映像の形状を補正します。

▶ 関連項目

- ・「映像の形状を補正する」 [p.33](#)

スクリーンの正面にプロジェクターを設置して、水平にすることで、傾きやゆがみのない映像を投写できます。スクリーンに対して斜めにプロジェクターを設置したり、上下に傾けて設置したりしたときは、映像の形状を補正します。

▶ 関連項目

- ・「自動タテ補正」 [p.33](#)
- ・「台形補正（ヨコ）ボタンで映像の水平方向のゆがみを補正する」 [p.33](#)
- ・「台形補正ボタンで映像のゆがみを補正する」 [p.34](#)
- ・「Quick Corner機能で映像のゆがみを補正する」 [p.35](#)

自動タテ補正

プロジェクターを移動したり傾けたりしたときに、自動タテ補正によって縦方向のゆがみが自動的に補正されます。

自動タテ補正で投写映像を正しく補正できる条件は、以下のとおりです。

- ・ [設定] メニューの [OSD回転] が [オフ] に設定されていること
- ・ [設定] > [設置] > [OSD回転]



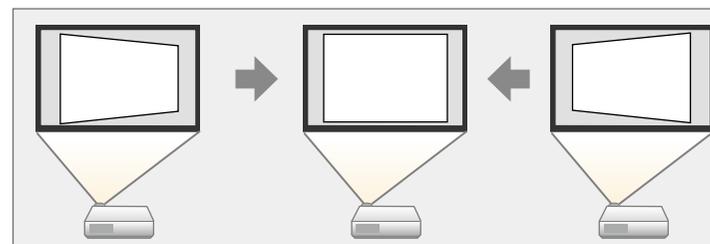
- ・ 縦方向は投写角度上下360°補正できます。補正を微調整したいときは、リモコンの ボタンを押して手動で補正してください。
- ・ 自動タテ補正で映像を補正しないときは、[自動タテ補正] を [オフ] に設定します。
- ・ [設定] > [設置] > [台形補正] > [タテヨコ] > [自動タテ補正]

▶ 関連項目

- ・「設定メニュー」 [p.63](#)
- ・「台形補正ボタンで映像のゆがみを補正する」 [p.34](#)

台形補正（ヨコ）ボタンで映像の水平方向のゆがみを補正する

操作パネルの台形補正（ヨコ）ボタンを押して、映像の横方向のゆがみを補正します。



補正できる条件は、投写角度が左右40°以内のときです。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** 操作パネルの台形補正（ヨコ）のどちらかのボタンを押します。
[台形補正] 調整画面が表示されます。



- 3** 台形補正（ヨコ）ボタンを押して映像の形状を調整します。



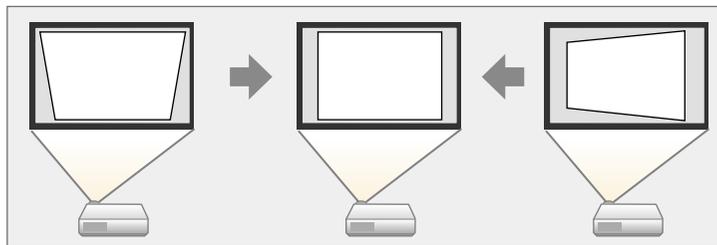
補正後は、映像が少し小さくなります。



プロジェクターが手の届かない場所に設置されているときは、リモコンの \square ボタンで映像のゆがみを補正してください。

台形補正ボタンで映像のゆがみを補正する

リモコンの \square ボタンを押して、映像のゆがみを補正します。



- 同時に複数の補正方法を使って補正することはできません。
- 横方向は投写角度左右40°まで補正できます。

1 本機の電源を入れて、映像を表示します。

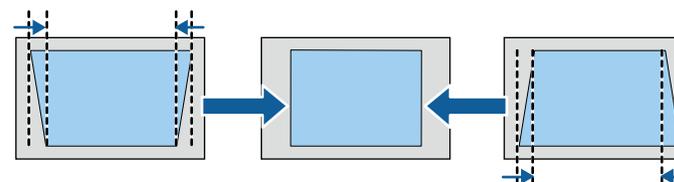
2 リモコンの \square ボタンを押します。

[台形補正] 調整画面が表示されます。

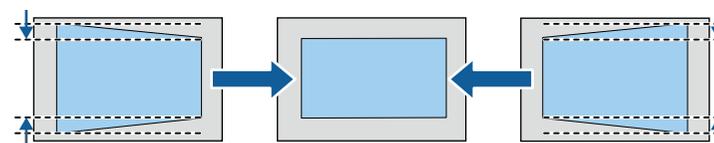


3 リモコンの上下左右ボタンで補正方法を選択して、映像の形状を補正します。

・ [タテ補正]



・ [ヨコ補正]

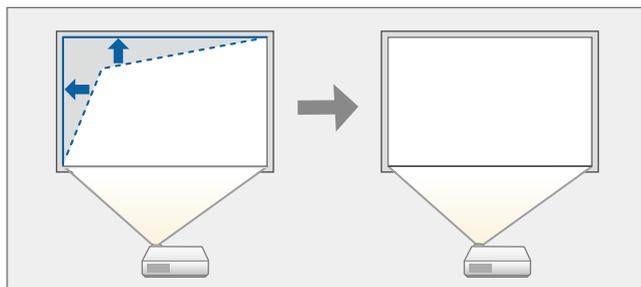


4 終了したら、 \square ボタンを押します。

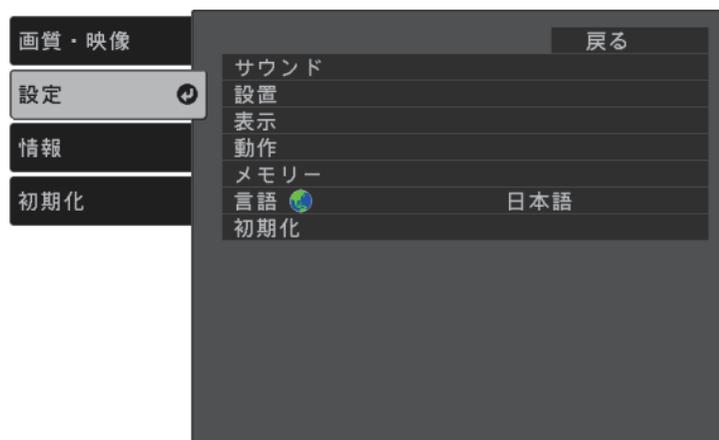
補正後は、映像が少し小さくなります。

Quick Corner機能で映像のゆがみを補正する

Quick Corner機能を使用して、映像のゆがみと大きさを補正します。



- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 リモコンの  ボタンを押します。
- 3 [設定] を選択して、 ボタンを押します。



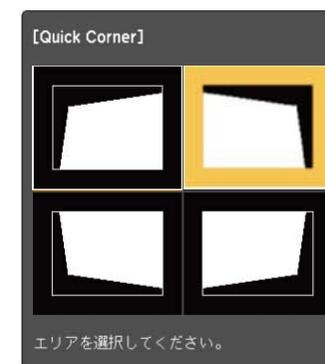
- 4 [設定] > [台形補正] の順に選択して、 ボタンを押します。

- 5 [Quick Corner] を選択して、 ボタンを押します。必要に応じてもう一度  ボタンを押します。



エリア選択画面が表示されます。

- 6 上下左右ボタンを押して、調整するコーナーを選択します。その後、 ボタンを押します。



Quick Cornerで補正した結果を初期化するには、エリア選択画面が表示されているときに  ボタンを約2秒間押し、[はい] を選択します。

7 上下左右ボタンを押して、映像の形状を調整します。

Enter ボタンを押すと、エリア選択画面に戻ります。



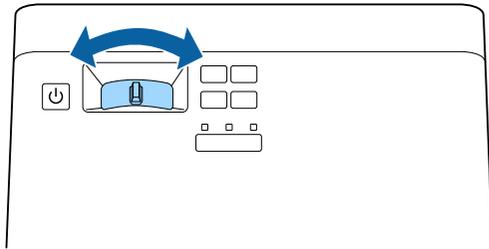
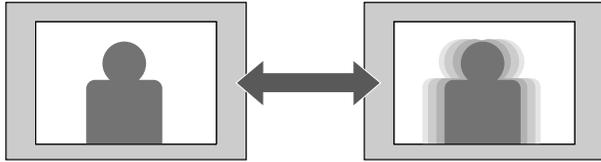
8 手順6と7を繰り返して、調整が必要なすべてのコーナーを調整します。

9 終了したら、↶ ボタンを押します。

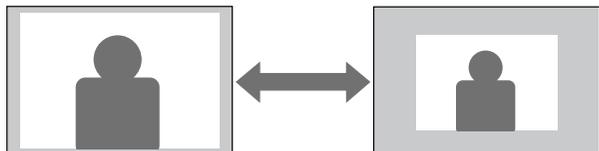
▶ 関連項目

- 「設定メニュー」 [p.63](#)

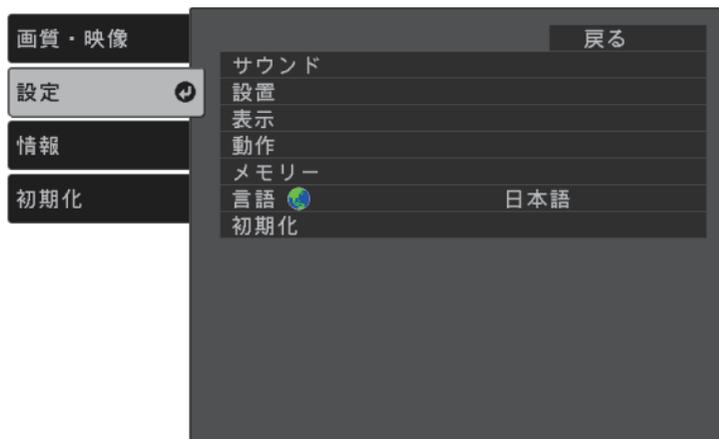
フォーカスレバーを使用して、ピントのズレを補正します。



ズームメニューで映像の大きさを調整できます。



- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 リモコンの  ボタンを押します。
- 3 [設定] を選択して、 ボタンを押します。



- 4 [設定] > [ズーム] の順に選択して、 ボタンを押します。

- 5 左右ボタンを押して映像の大きさを調整して、 ボタンを押します。



- 6  ボタンまたは  ボタンを押してメニューを終了します。

本機はさまざまな縦横比（アスペクト比）で映像を表示できます。通常は、接続機器からの入力信号によって映像のアスペクト比が決まります。映像をスクリーンに合わせるために、手動でアスペクト比を切り替えることもできます。

常に特定のアスペクト比で投写するときは、[画質・映像] メニューでアスペクトを設定します。

▶ 関連項目

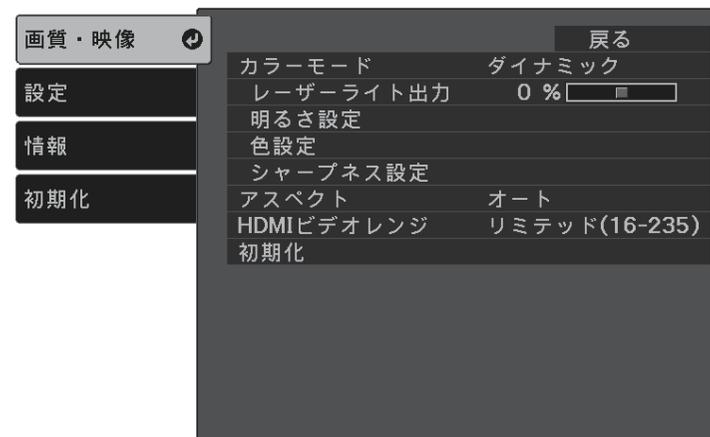
- ・「映像のアスペクト比を切り替える」 p.39
- ・「アスペクトモードの種類」 p.40
- ・「各アスペクトモードの投写イメージ」 p.40
- ・「画質・映像メニュー」 p.61

映像のアスペクト比を切り替える

投写する映像のアスペクト比（縦横比）を切り替えます。

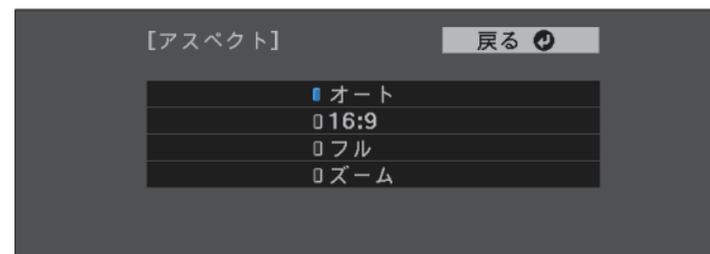
- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 リモコンの  ボタンを押します。

- 3 [画質・映像] を選択して、 ボタンを押します。



- 4 [アスペクト] を選択して、 ボタンを押します。

- 5 入力信号に合わせてアスペクト比を選択して、 ボタンを押します。



- 6  ボタンまたは  ボタンを押してメニューを終了します。

▶ 関連項目

- ・「画質・映像メニュー」 p.61

アスペクトモードの種類

接続機器からの入力信号に応じて、以下のアスペクト比を選択できます。



- ・入力信号のアスペクト比と解像度によっては、特定のアスペクトモードで黒帯が発生したり、映像の端が欠けたりすることがあります。
- ・著作権法で保護されている映像をアスペクト機能で圧縮、引き伸ばし、分割などを行い、営利目的で公衆に視聴させた場合は、著作権者の権利を侵害するおそれがあります。

アスペクトモード	説明
オート	入力信号によってアスペクト比が自動的に設定されます。
16:9	入力信号のアスペクト比が16:9に変換されます。
フル	入力信号のアスペクト比を維持せずに、投写エリア全体に映像を表示します。
ズーム	入力信号のアスペクト比を維持し、投写エリアの横幅に合わせて映像を表示します。

アスペクトモード	入力信号のアスペクト比		
	16:10	16:9	4:3
オート			
16:9			
フル			
ズーム			

各アスペクトモードの投写イメージ

入力信号のアスペクト比と解像度によっては、特定のアスペクトモードで黒帯が発生したり、映像の端が欠けたりすることがあります。黒帯が発生する領域と映像の欠けが発生する領域は、以下の表をご覧ください。

本機は、投写環境や映像の種類に応じて、明るさ、コントラスト、色を最適化するためのカラーモードを用意しています。環境や映像の種類に合ったカラーモードを選択できます。

▶ 関連項目

- ・「カラーモードを変更する」 p.41
- ・「カラーモードの種類」 p.41
- ・「映像の光量を調整する」 p.41

カラーモードを変更する

リモコンでカラーモードを変更して、映像を最適化します。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの  ボタンを押してカラーモードを切り替えます。
カラーモードの名称が一時的に投写画面に表示され、映像の表示が切り替わります。
- 3** 投写中の入力信号で選択できるカラーモードを順に切り替えるには、  ボタンを繰り返し押します。



カラーモードは「画質・映像」メニューの「カラーモード」でも設定できます。

▶ 関連項目

- ・「画質・映像メニュー」 p.61

カラーモードの種類

投写環境や映像の種類に応じて、以下のカラーモードを設定できます。

カラーモード	説明
ダイナミック	最も明るいモードです。明るさを優先したい場合に適しています。
ブライトシネマ	映像を明るく鮮やかに投写したい場合に適しています。
ナチュラル	映像の色調整を行いたい場合に適しています。
シネマ	映画などのコンテンツを楽しむのに適しています。

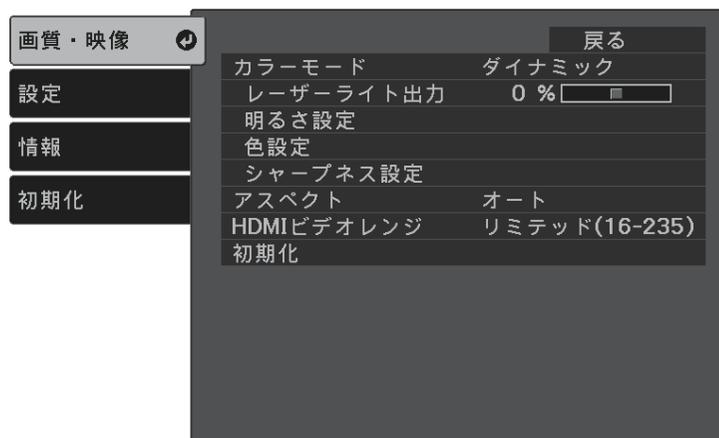
映像の光量を調整する

ダイナミックコントラストをオンにすると、投写映像の光量を自動的に調整できます。光量を自動的に調整することで、映像の明るさに合わせてコントラストを改善します。

カラーモードが「ダイナミック」または「シネマ」のときのみ設定できます。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの  ボタンを押します。

3 [画質・映像] を選択して、 ボタンを押します。



4 [明るさ設定] > [ダイナミックコントラスト] の順に選択して、 ボタンを押します。

5 次のいずれかを選択して、 ボタンを押します。

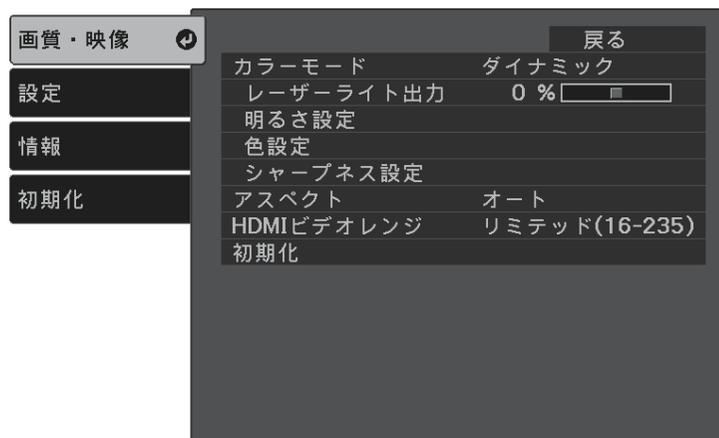
- ・ [標準] : 標準の光量調整が行われます。
- ・ [高速] : シーンが切り替わったとき、すぐに光量を調整します。



6  ボタンまたは  ボタンを押してメニューを終了します。

投写映像の画質を細かく調整できます。

- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 リモコンの  ボタンを押します。
- 3 [画質・映像] を選択して、 ボタンを押します。



- [MPEGノイズリダクション] : MPEG形式の映像のざらつきを抑えます。



- 6  ボタンまたは  ボタンを押してメニューを終了します。

- 4 [シャープネス設定] を選択して、 ボタンを押します。
- 5 必要に応じて以下を調整します。
 - [シャープネス] : 映像の輪郭の見え方を調整します。
 - [ノイズリダクション] : 映像のざらつきを抑えます。

投写映像の色合いを細かく調整できます。

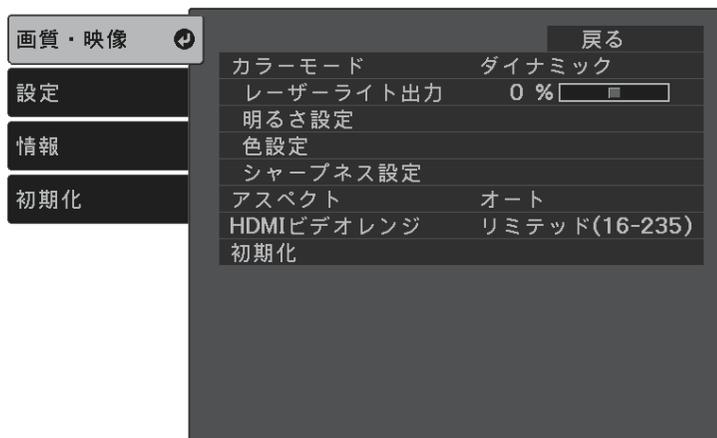
▶ 関連項目

- ・「色温度を調整する」 p.44
- ・「RGBを調整する（オフセット・ゲイン）」 p.44
- ・「色相、彩度、明度を調整する」 p.45
- ・「ガンマを調整する」 p.46

色温度を調整する

映像全体の色合いを調整します。映像の青みが強すぎる、赤みが強すぎるなどのときに調整します。

- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 リモコンの  ボタンを押します。
- 3 「画質・映像」を選択して、 ボタンを押します。



- 4 「色設定」 > 「ホワイトバランス」 > 「色温度」の順に選択して、 ボタンを押します。

- 5 左右ボタンを押して、映像の色合いを調整します。



値を高くすると青みがかった映像になり、値を低くすると赤みがかった映像になります。

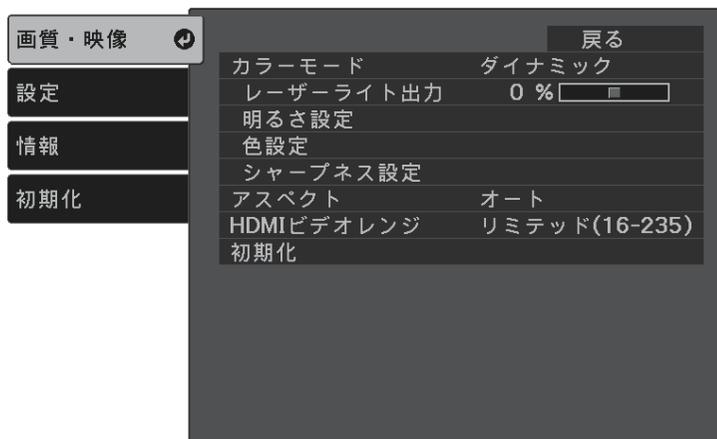
- 6  ボタンまたは  ボタンを押してメニューを終了します。

RGBを調整する（オフセット・ゲイン）

R（赤） G（緑） B（青）の各色について、暗い部分（オフセット）と明るい部分（ゲイン）の明度を調整します。

- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 リモコンの  ボタンを押します。

- 3** [画質・映像] を選択して、**Enter** ボタンを押します。



- 4** [色設定] > [ホワイトバランス] > [カスタム] の順に選択して、**Enter** ボタンを押します。

- 5** 調整する色をR (赤)、G (緑)、B (青) から選択して、必要に応じて以下を調整します。

- ・ [オフセット] : 映像の暗い部分の明度を調整します。
- ・ [ゲイン] : 映像の明るい部分の明度を調整します。



値を高くすると明るくなり、値を低くすると暗くなります。

[オフセット] : 明るくすると暗い部分の濃淡がはっきりしなくなります。暗くするとメリハリのある見え方になりますが、濃淡がわかりにくくなります。

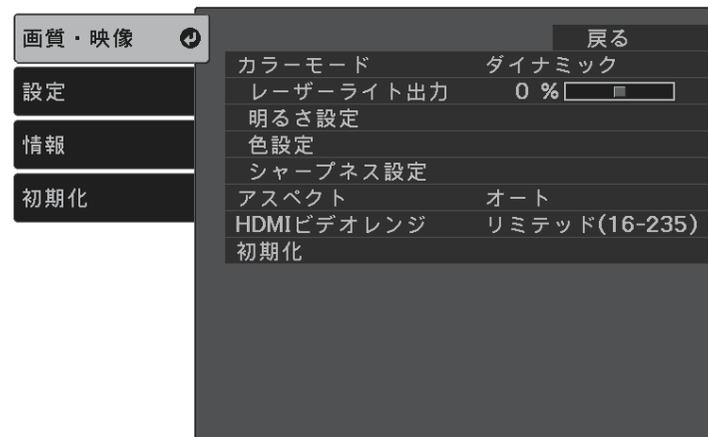
[ゲイン] : 明るくすると明るい部分が白っぽくなり、濃淡がわかりにくくなります。暗くすると濃淡がはっきりします。

- 6** **Exit** ボタンまたは **Back** ボタンを押してメニューを終了します。

色相、彩度、明度を調整する

映像の [色相]、[彩度]、[明度] を調整します。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの **Menu** ボタンを押します。
- 3** [画質・映像] を選択して、**Enter** ボタンを押します。



4 [色設定] > [RGBCMY] の順に選択して、**Enter** ボタンを押します。

5 調整する色を選択して、**Enter** ボタンを押します。



6 必要に応じて以下を調整します。

- ・ [色相] : 映像全体の色味を、青系～緑系～赤系へと調整します。
- ・ [彩度] : 映像全体の鮮やかさを調整します。
- ・ [明度] : 映像全体の明るさを調整します。



7 **Menu** ボタンまたは **Back** ボタンを押してメニューを終了します。

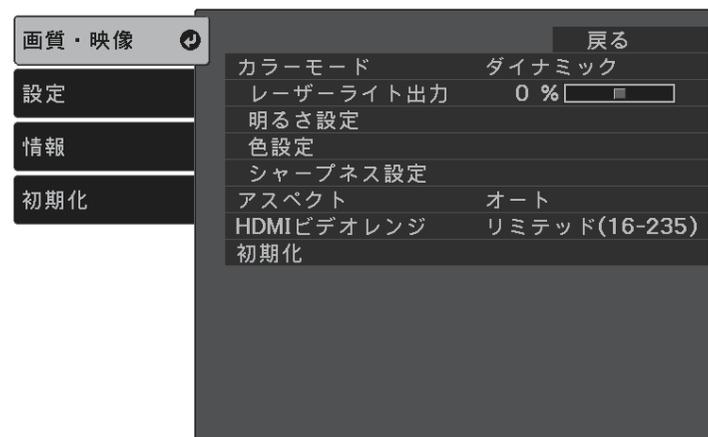
ガンマを調整する

[ガンマ] を調整することにより、接続機器の違いにより生じる投写映像の発色の違いを調整します。

1 本機の電源を入れて、映像を表示します。

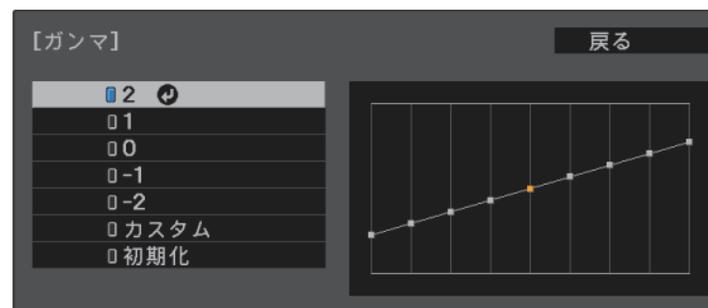
2 リモコンの **Menu** ボタンを押します。

3 [画質・映像] を選択して、**Enter** ボタンを押します。

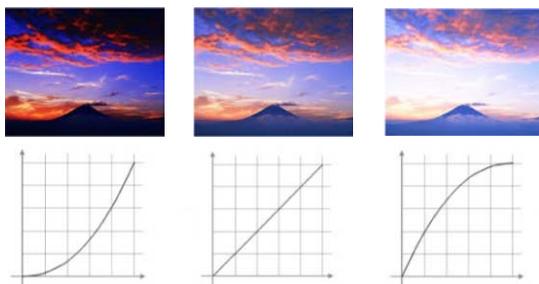


4 [明るさ設定] > [ガンマ] の順に選択して、**Enter** ボタンを押します。

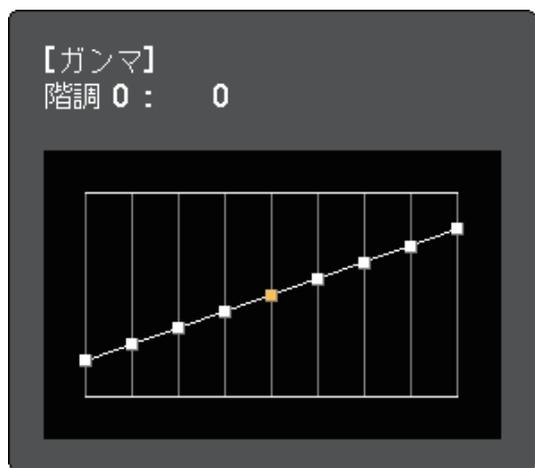
5 補正值を選んで調整します。



数値が小さいほど、映像全体の明るさを抑えてメリハリのある映像になります。数値が大きいと、映像の暗い部分が明るくなり、明るい部分は色の濃淡が小さくなります。



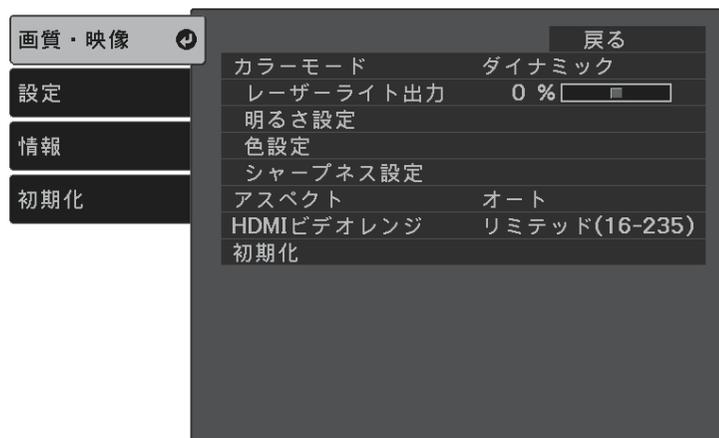
- 調整の精度を上げるには、[カスタム] を選択して、**Enter** ボタンを押します。
- ガンマ調整グラフで、左右ボタンを使って変更したい階調を選択します。選択された階調を上下ボタンで調整して、**Enter** ボタンを押します。



- 8** **Exit** ボタンまたは **Back** ボタンを押してメニューを終了します。

光源の明るさを設定します。

- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 リモコンの  ボタンを押します。
- 3 [画質・映像] を選択して、 ボタンを押します。



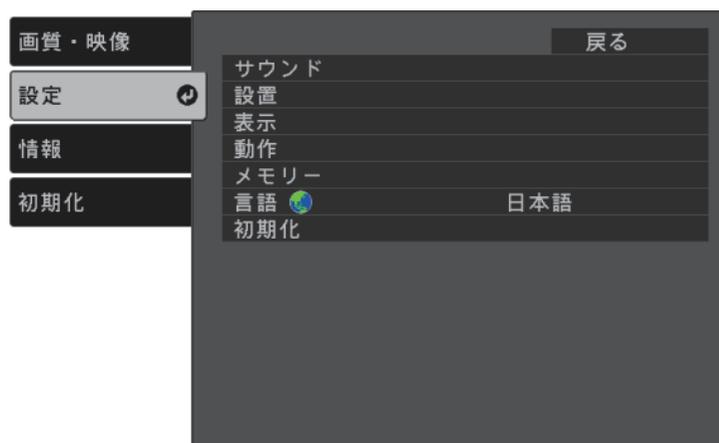
- 4 [レーザーライト出力] を選択して、 ボタンを押します。
- 5 左右ボタンで明るさを設定します。



- 6  ボタンまたは  ボタンを押してメニューを終了します。

〔画質・映像〕メニューで調整した投写映像の設定値をメモリーに登録して、いつでも必要なときに呼び出すことができます。

- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 リモコンの  ボタンを押します。
- 3 〔設定〕を選択して、 ボタンを押します。

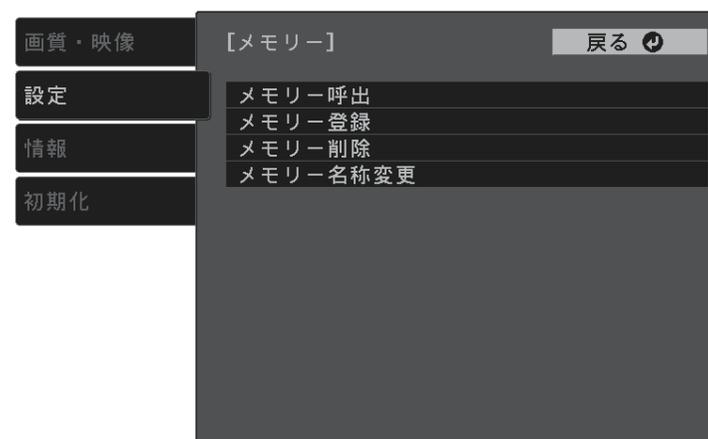


- 4 〔メモリー〕を選択して、 ボタンを押します。
- 5 次のいずれかを選択します。
 - ・〔メモリー呼出〕：登録したメモリーを呼び出して、現在の〔画質・映像〕メニューの設定と置き換えます。
 - ・〔メモリー登録〕：現在の〔画質・映像〕メニューの設定をメモリーに登録します（10件まで登録できます）。



すでに登録済みのメモリー名は青いマークで表示されます。登録済みのメモリー名を選択したときは、登録内容を消去して、現在の設定と置き換えます。

- ・〔メモリー削除〕：選択したメモリーを消去します。
- ・〔メモリー名称変更〕：メモリー名を変更します。



- 6  ボタンまたは  ボタンを押してメニューを終了します。



- ・メモリー登録時のカラーモードは、メモリー名の右側に表示されます。
- ・登録されたメモリーをすべて消去するには、〔初期化〕メニューの〔メモリー初期化〕を選択します。

音量ボタンは、プロジェクターの内蔵スピーカーの音量を調整します。

本機に接続しているBluetoothオーディオ機器の音量も調整できます。内蔵スピーカーとBluetoothオーディオ機器の音量は、それぞれ調整する必要があります。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** 操作パネルまたはリモコンの  ボタンまたは  ボタンを押して、音量を調整します。
音量調節画面が表示されます。

注意

初めから音量を上げすぎないでください。突然大きな音が出て、聴力障害の原因となることがあります。

電源を切る前に音量を下げておき、電源を入れた後で徐々に上げてください。

▶ 関連項目

- ・「設定メニュー」 [p.63](#)

本機は、投写映像の種類に応じて、音声を最適化するためのサウンドモードを用意しています。

映像の種類や投写環境に合ったサウンドを選択できます。

 Bluetoothオーディオ機器から音声を出力するときは、[サウンドモード] は選択できません。

1 本機の電源を入れて、映像を表示します。

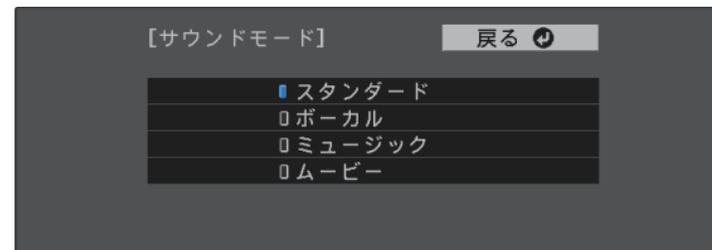
2 リモコンの  ボタンを押します。

3 [設定] を選択して、 ボタンを押します。



4 [サウンド] > [サウンドモード] の順に選択して、 ボタンを押します。

5 お好みのサウンドモードを選択して、 ボタンを押します。



6  ボタンまたは  ボタンを押してメニューを終了します。

▶ 関連項目

- ・「サウンドモードの種類」 p.51

サウンドモードの種類

投写している映像の種類に応じて、以下のサウンドモードを設定できます。

サウンドモード	説明
スタンダード	標準のサウンドモードです。
ボーカル	ボーカルやせりふを聴きやすくします。
ミュージック	音楽に適しています。低音、高音がクリアに再生されます。
ムービー	ビデオや映画を楽しむのに適しています。低音、高音が強調されます。

プロジェクターの便利な機能

プロジェクターの各機能を使用します。

▶ 関連項目

- ・ 「HDMIリンク機能」 [p.53](#)
- ・ 「映像と音声を一時的に遮断する（A/Vミュート）」 [p.55](#)
- ・ 「セキュリティー機能」 [p.56](#)

本機のHDMI端子にHDMI CEC規格に対応したAV機器を接続すると、接続機器同士の連携動作が本機のリモコンで操作できます。

▶ 関連項目

- ・「HDMIリンク機能を使って接続機器を操作する」 p.53

HDMIリンク機能を使って接続機器を操作する

HDMIリンクを利用できる接続機器を選択して、HDMIリンク機能で機器を操作できます。



- ・ HDMIリンクを使用するには、接続機器側の設定も必要です。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- ・ HDMI CEC規格に対応していても動作しない接続機器や、動作しない機能があります。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- ・ ケーブルがHDMIの規格に対応していないと動作しません。

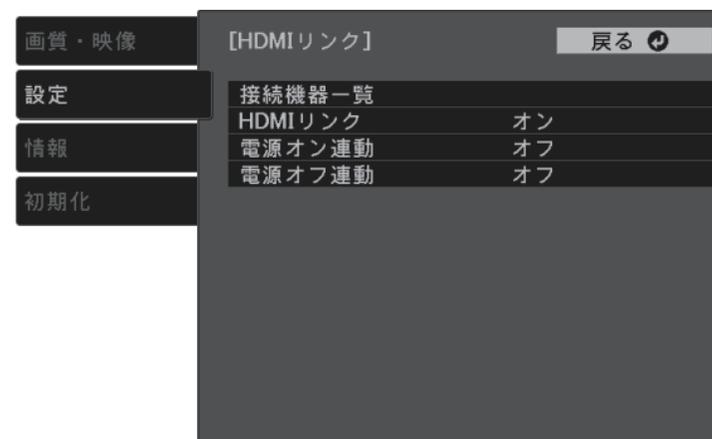
1 リモコンの ボタンを押します。

2 [設定] を選択して、 ボタンを押します。



3 [動作] > [HDMIリンク] の順に選択して、 ボタンを押します。

4 [HDMIリンク] を [オン] に設定して、 ボタンを押します。



5 [接続機器一覧] を選択して、 ボタンを押します。
接続機器一覧が表示されます。

6 HDMIリンクで操作したり映像を表示したりする機器を選択して、 ボタンを押します。



- HDMIリンクされている機器は左側のマークが青色になります。
- 機器名が取得できないときは空欄になります。

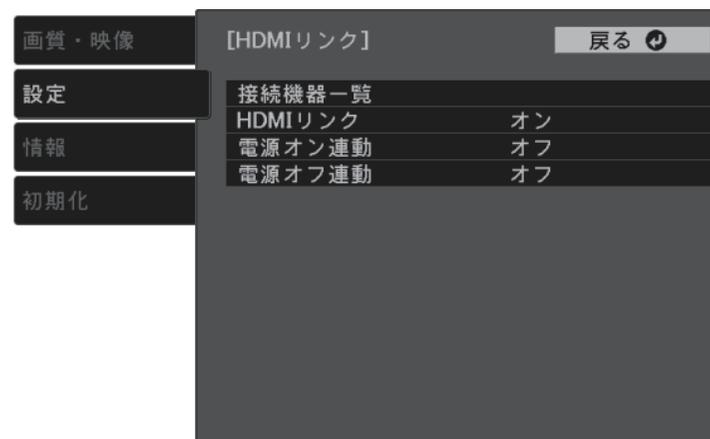
7 必要に応じて  ボタンを押して、HDMIリンクのオプション設定をします。

- [電源オン連動] : 本機や接続機器の電源を入れたときに連動する操作を設定します。本機の電源を入れたとき、接続機器の電源も入るようにするには、[PJ→接続機器] または [双方向] を選択します。接続機器の電源を入れたとき、本機の電源も入るようにするには、[接続機器→PJ] または [双方向] を選択します。

- [電源オフ連動] : 本機の電源オフに連動して、接続機器の電源も切るかどうか設定します。



- [電源オフ連動] は、接続機器のCEC電源連動機能を有効に設定しているときのみ有効です。
- 録画中の機器など、状態によっては電源が切れないことがあります。



8  ボタンを押してメニューを終了します。

本機のリモコンを使って接続機器の再生、停止、音量調整などの操作ができます。

▶ 関連項目

- 「設定メニュー」 p.63

投写映像と音声を一時的に消すことができます。遮断中も映像と音声は進んでいるため、遮断した場面から投写を再開することはできません。



- 1** リモコンの  ボタンを押します。
光源が消灯して、映像と音声~~が~~遮断されます。
- 2** 投写を再開するときは、再度  ボタンを押します。

以下のセキュリティ機能を使用することで、プロジェクターの盗難や誤用・悪用を防止します。

- ・ 操作ボタンロック：操作パネルのボタン操作をできないようにします。
- ・ セキュリティーケーブル：プロジェクターを固定して盗難を防ぎます。

▶ 関連項目

- ・ 「操作パネルのボタン操作を制限する」 p.56
- ・ 「セキュリティケーブルを取り付ける」 p.57

操作パネルのボタン操作を制限する

操作パネルのボタンをロックして、本機の無断使用を防止します。リモコンからは通常どおり操作できます。

- 1 リモコンの  ボタンを押します。
- 2 [設定] を選択して、 ボタンを押します。



- 3 [動作] を選択して、 ボタンを押します。

- 4 ロックの種類を選択して、 ボタンを押します。

- ・ 電源ボタンをロックするには、[チャイルドロック] を選択します。ロック時に電源をオンにするには、電源ボタンを3秒以上押します。



[ダイレクトパワーオン] を [オン] に設定しているときは、[チャイルドロック] をオンに設定していても、電源コードを接続するだけで本機の電源がオンになりますので、ご注意ください。

☛ [設定] > [動作] > [ダイレクトパワーオン]

- ・ 操作パネルのすべてのボタンをロックするときは、[操作ボタンロック] > [全ロック] の順に選択します。
- ・ 電源ボタン以外のすべてのボタンをロックするときは、[操作ボタンロック] > [操作ロック] の順に選択します。

確認メッセージが表示されます。

- 5 [はい] を選択して、 ボタンを押します。

▶ 関連項目

- ・ 「操作ボタンロックを解除する」 p.56
- ・ 「設定メニュー」 p.63

操作ボタンロックを解除する

以下の方法で、操作ボタンロックを解除します。

- ・ [チャイルドロック] を解除するには、[設定] メニューの [チャイルドロック] を [オフ] に設定します。

☛ [設定] > [動作] > [チャイルドロック]

- ・ [操作ボタンロック] を解除するには、操作パネルの  ボタンを約7秒間押し続けます。
メッセージが表示され、ロックが解除されます。

セキュリティーケーブルを取り付ける

盗難防止のために、Kensington社製のマイクロサーバーセキュリティーシステムを、本機のセキュリティースロットに取り付けることができます。



マイクロサーバーセキュリティーシステムについての詳細は、<http://www.kensington.com/>をご覧ください。

▶ 関連項目

- ・ 「プロジェクターの各部名称 - 前面/上面」 [p.9](#)

メニューの設定

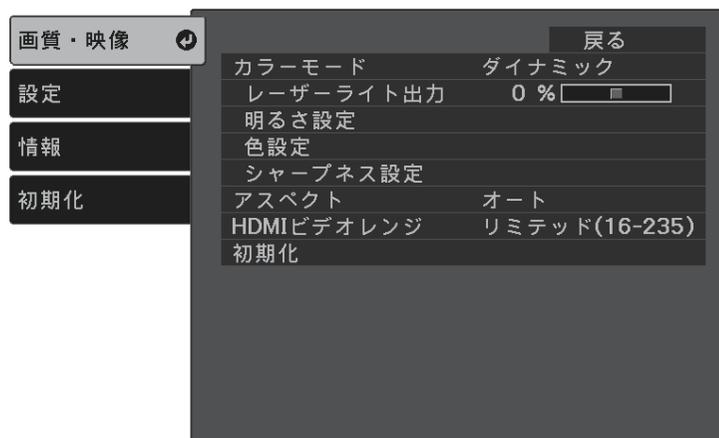
プロジェクターメニューの機能と設定について説明します。

▶ 関連項目

- ・ 「プロジェクターメニューを操作する」 [p.59](#)
- ・ 「ソフトキーボードを操作する」 [p.60](#)
- ・ 「画質・映像メニュー」 [p.61](#)
- ・ 「設定メニュー」 [p.63](#)
- ・ 「情報メニュー」 [p.66](#)
- ・ 「初期化メニュー」 [p.68](#)

投写画面に表示されるメニューを使って、本機の各種動作を設定します。

- 1 リモコンの  ボタンを押します。
[画質・映像] メニューが表示されます。



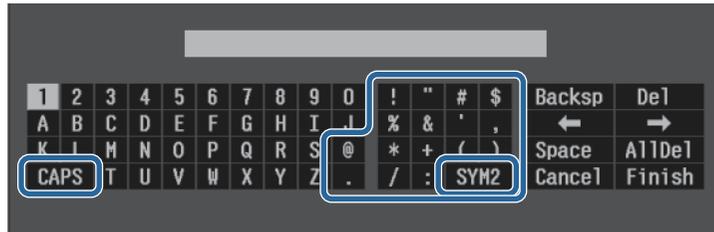
- 2 上下ボタンを押して、左側に表示されるメニュー項目を選択します。各メニューの設定が右側に表示されます。
- 3 設定を変更するには、 ボタンを押します。
- 4 上下ボタンを押して、設定項目を選択します。
- 5 メニュー画面の下に表示されるナビゲーションに従って、設定を変更します。
- 6 メニュー設定をすべて初期設定に戻すには、[初期化] を選択します。

- 7 メニューの設定が終わったら、 ボタンを押します。

- 8  ボタンまたは  ボタンを押してメニューを終了します。

数字や文字の入力が必要なときはソフトキーボードが表示されます。

- 1 リモコンの上下左右ボタンを使って、入力する数字や文字を選択して、 ボタンを押します。



 [CAPS] キーを選択すると、大文字小文字が切り替わります。[SYM1/2] キーを選択すると、枠に囲まれている記号が変わります。

- 2 テキストの入力後、キーボードの [Finish] を選択して入力を確定します。[Cancel] を選択すると、テキストの入力を取り消します。

▶ 関連項目

- ・「ソフトキーボードで入力可能な文字」 [p.60](#)

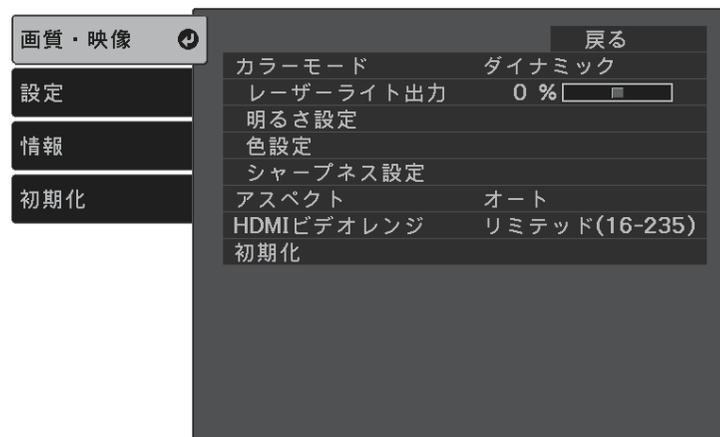
文字タイプ	詳細
アルファベット	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
記号	!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\ ^_`{ }~

ソフトキーボードで入力可能な文字

ソフトキーボードでは、以下の文字を入力できます。

文字タイプ	詳細
数字	0123456789

〔画質・映像〕メニューでは、現在投写している入力ソースの映像の画質を調整できます。



設定	選択肢	説明
カラーモード	カラーモードの一覧を参照	映像の種類や使用環境に応じて、適切なカラーモードを選択します。
レーザーライト出力	レベル調整	光源の明るさを設定します。
明るさ設定	明るさ	映像の明るさを調整します。
	コントラスト	映像のコントラストを調整します。
	ガンマ	補正値を選んだり、ガンマグラフを見ながら映像の発色を調整します。
	ダイナミックコントラスト	映像の明るさに合わせて投写時の光量を調整します。〔カラーモード〕を〔ダイナミック〕または〔シネマ〕に設定しているときに調整できます。
	EPSON Super White	白の部分が明るく白とびしているときはオンに設定します。

設定	選択肢	説明
色設定	色の濃さ	映像の色の濃さを調整します。
	色合い	映像の色合いを調整します。
	ホワイトバランス	〔色温度〕：選択したカラーモードに応じて設定します。値を高くすると青みがかった映像になり、値を低くすると赤みがかった映像になります。 〔カスタム〕：R（赤）、G（緑）、B（青）の色ごとにオフセットとゲインを調整します。
	RGBCMY	R（赤）、G（緑）、B（青）、C（シアン）、M（マゼンタ）、Y（イエロー）ごとに色相、彩度、明度を調整します。
シャープネス	シャープネス	映像の輪郭の見え方を調整します。
	ノイズリダクション	アナログ映像のざらつきを抑えます。
	MPEGノイズリダクション	MPEG形式の映像のざらつきを抑えます。
アスペクト	アスペクト比の一覧を参照	映像のアスペクト比（縦横比）を設定します。
HDMIビデオレンジ	オート リミテッド(16-235) フル(0-255)	HDMI端子に接続された機器の設定に合わせて、本機のビデオレベルを設定します。
初期化	—	選択されているカラーモードの〔画質・映像〕メニューで調整したすべての値を初期値に戻します。

▶ 関連項目

- ・「カラーモードの種類」 [p.41](#)
- ・「各アスペクトモードの投写イメージ」 [p.40](#)
- ・「光源の明るさを設定する」 [p.48](#)
- ・「シャープネスを調整する」 [p.43](#)
- ・「映像の色合いを調整する」 [p.44](#)

[設定] メニューでは、プロジェクターの各種設定ができます。



設定	選択肢	説明
サウンド	音量	本機の内蔵スピーカーの音量を調整します。また、本機に接続しているBluetoothオーディオ機器の音量も調整できます。内蔵スピーカーとBluetoothオーディオ機器の音量は、それぞれ調整する必要があります。
	サウンドモード	再生するコンテンツの内容に適したサウンドモードを選択します。Bluetoothオーディオ機器で音声を出力しているときは選択できません。

設定	選択肢	説明
	Bluetooth	<p>[Bluetooth機器検索] : 接続可能なBluetoothオーディオ機器を検索します。</p> <p>[Bluetoothオーディオ] : Bluetoothオーディオ機器から音声を出力するときは、オンに設定します。</p> <p>[接続機器] : 接続中のBluetoothオーディオ機器の情報を表示します。</p>
設置	台形補正	<p>[タテヨコ] : 投写映像の縦方向、横方向のゆがみを補正します。</p> <p>[Quick Corner] : 投写画面のコーナーの形状を個別に補正します。</p>
	ズーム	映像の大きさを調整します。
	設置モード	映像が正しい方向で投写されるように、スクリーンに対する本機の設置方法を選択します。
	OSD回転	プロジェクターメニューの表示方向を90°回転させます。
	高地モード	標高約1500m以上の場所で本機を使用できるように動作を制御します。
表示	ウェルカムガイド	本機の特長や使い方を紹介します。
	メッセージ表示	[オン] に設定すると、カラーモード名、アスペクト比、高温警告などのメッセージが投写画面に表示されます。メッセージを表示させたくないときは [オフ] を選択します。
	スタートアップスクリーン	[オン] に設定すると、投写開始時にEPSONロゴを表示します。

設定	選択肢	説明
	スタンバイ確認	[オフ] に設定すると、操作パネルまたはリモコンの電源ボタンを押したときに、シャットダウン確認画面を表示せずに本機の電源を切ります。
	サンプル画像再生	[オン] に設定すると、映像信号が入力されていないときにサンプル画像を投写します。サンプル画像は、操作パネルまたはリモコンのボタンを押すと消えます。この機能を有効にすると、本機はスリープモードになりません。
	型番表示モード	投写画面に本機の型番を表示するときは、[オン] に設定します。[言語] で [日本語] が選択されているときのみ有効です。

設定	選択肢	説明
動作	HDMIリンク	<p>[接続機器一覧] : HDMI端子に接続されている機器の一覧を表示します。</p> <p>[HDMIリンク] : HDMIリンクの有効/無効を切り替えます。</p> <p>[電源オン連動] : 本機または接続機器の電源をオンにしたときの動作を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [双方向] : 本機の電源オンに連動して接続機器の電源をオンに、また、接続機器の電源オンに連動して本機の電源をオンにします。 ・ [接続機器→PJ] : 接続機器の電源オンに連動して、本機の電源をオンにします。 ・ [PJ→接続機器] : 本機の電源オンに連動して、接続機器の電源をオンにします。 <p>[電源オフ連動] : 本機の電源オフに連動して、接続機器の電源をオフにするかしないかを設定します。</p>
	スリープモード	[オン] に設定すると、一定時間映像信号の入力がないときに、自動的に本機の電源が切れます。
	スリープモード時間	[スリープモード] で電源が自動で切れるまでの時間を設定します。
	ダイレクトパワーオン	電源プラグを差し込むだけで、本機の電源が入ります。
	イルミネーション	操作パネルのインジケータを消灯します。

設定	選択肢	説明
	チャイルドロック	お子様が誤って電源を入れないように、操作パネルのボタンでの電源オンをロックします。
	操作ボタンロック	操作パネルのすべてのボタン操作を無効にするときは [全ロック] を、電源ボタン以外のボタン操作を無効にするときは [操作ロック] を選択します。
	スタンバイ時USB給電 (一部の国と地域のみ)	[オン] に設定すると、本機がスタンバイ状態 (電源オフ) のときも、USB給電ケーブルからメディアストリーミング端末に電力を供給します。 本機の内部が高温になると、電力の供給が自動で停止することがあります。
	接続デバイス冷却	メディアストリーミング端末冷却用ファンの回転数を設定します。
メモリー	メモリー呼出 メモリー登録 メモリー削除 メモリー名称変更	投写映像の設定値をメモリーに登録します。
言語	言語設定	メニュー、メッセージに表示する言語を選択します。

設定	選択肢	説明
初期化	—	[設定] メニューで調整した、以下を除くすべての値を初期値に戻します。 <ul style="list-style-type: none"> • [ズーム] • [設置モード] • [高地モード] • [電源オン連動] • [電源オフ連動] • [スタンバイ時USB給電] • [接続デバイス冷却] • [メモリー] • [言語]

▶ 関連項目

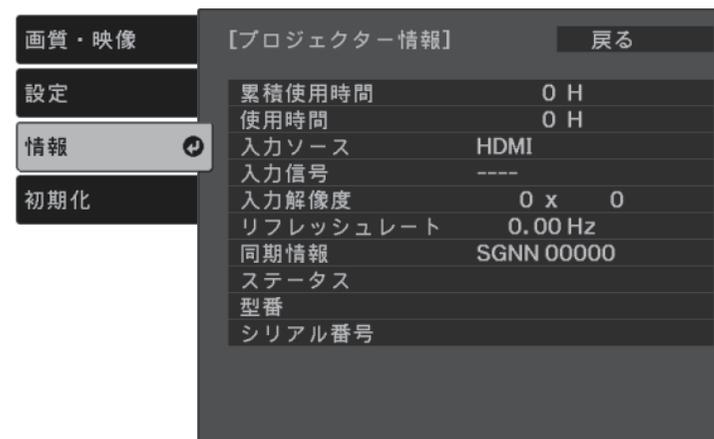
- 「映像の形状を補正する」 [p.33](#)
- 「HDMIリンク機能」 [p.53](#)
- 「セキュリティ機能」 [p.56](#)
- 「Bluetooth®オーディオ機器を接続する」 [p.22](#)
- 「プロジェクターの設定をメモリーに保存する」 [p.49](#)
- 「音量ボタンで音量を調整する」 [p.50](#)
- 「サウンドモードを切り替える」 [p.51](#)

【情報】メニューでは、本機の情報、バージョンを確認できます。このメニューの設定は変更できません。



情報メニュー - プロジェクター情報

【情報】メニューの【プロジェクター情報】では、本機の状態や投写している映像信号の情報を確認できます。



情報の項目	説明
プロジェクター情報	プロジェクターの情報を表示します。
光源情報	光源の使用時間を表示します。
バージョン	ファームウェアバージョンを表示します。

▶ 関連項目

- ・「情報メニュー - プロジェクター情報」 [p.66](#)

情報の項目	説明
累積使用時間	プロジェクターの累計使用時間を表示します。
使用時間	プロジェクターの電源をオンにしてからの使用時間を表示します。
入力ソース	現在の入力ソースを表示します。
入力信号	現在の入力ソースの入力信号方式を表示します。
入力解像度	現在の入力ソースの解像度を表示します。
リフレッシュレート	現在の入力ソースのリフレッシュレートを表示します。
同期情報	サービス技術者が必要とする情報を表示します。
ステータス	サービス技術者が必要とするプロジェクターの問題に関する情報を表示します。

情報の項目	説明
型番	本機の型番を表示します。
シリアル番号	本機のシリアル番号を表示します。

[初期化] メニューでは、本機の設定を初期化できます。



設定	選択肢	説明
メモリー初期化	—	メモリー名と登録内容を消去します。
全初期化	—	本機の設定を初期化します。

以下の設定は、[全初期化] を実行しても初期値に戻りません。

- ・ズーム
- ・メモリー
- ・言語

プロジェクターをメンテナンスする

プロジェクターのメンテナンス方法について説明します。

▶ 関連項目

- 「プロジェクターのメンテナンス」 [p.70](#)
- 「投写窓を清掃する」 [p.71](#)
- 「本機を清掃する」 [p.72](#)
- 「エアフィルターと吸排気口をメンテナンスする」 [p.73](#)

プロジェクターの投写窓は定期的に清掃する必要があります。また、エアフィルターや吸排気口も掃除して、本機の内部温度が上昇しないようにしてください。

交換が必要な部品は、エアフィルターとリモコンの電池のみです。他の部品を交換する必要があるときは、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

警告

掃除をするときは、本機の電源をオフにして電源コードを抜いてから行ってください。また、取扱説明書で指示している場合を除き、本機のケースを開けないでください。内部には電圧の高い部分が数多くあり、火災・感電・事故の原因となります。

プロジェクターの投写窓は定期的に掃除し、表面に付着したホコリや汚れに気付いたときにも掃除してください。ホコリや汚れを市販のメガネ拭きなどで軽くふき取ってください。

警告

投写窓に付着したゴミ・ホコリの除去に可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。本機の内部は高温になっているため、引火による火災の原因となります。

注意

投写窓の表面は傷つきやすいので、かたいものでこすったり、たたいたりしないでください。

本機の掃除をするときは、本機の電源をオフにして電源コードを抜いてください。

- 本機のコリや汚れは柔らかい布で軽くふき取ってください。
- 汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤に布をひたしてかたくしぼり、軽くふき取ってから乾いた布で仕上げてください。本機に液体を直接スプレーしないでください。

注意

ワックス、ベンジン、シンナーなど揮発性のものは使わないでください。本機のケースが変質、変色することがあります。また、エアダスターも使用しないでください。

エアフィルターは定期的にメンテナンスしてください。プロジェクターの内部温度が高くなっていることを示すメッセージが表示されたら、エアフィルターを掃除してください。約3ヶ月に一度は掃除することをお勧めします。ホコリの多い環境でお使いの場合は、より短い周期で掃除してください。

注意

定期的にメンテナンスをしないと、プロジェクターの内部温度が高くなったときにメッセージが表示されます。内部の温度が上昇すると、故障や光学部品の早期劣化の原因となります。メッセージが表示されたらすみやかにエアフィルターを掃除してください。

▶ 関連項目

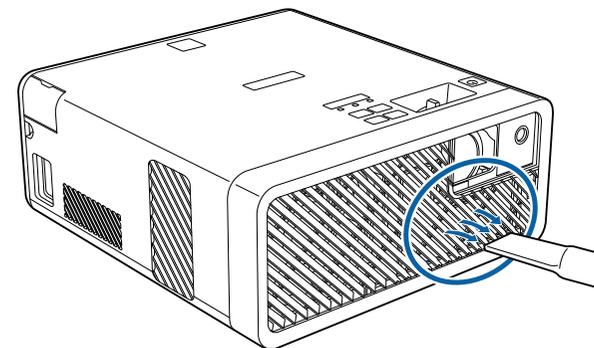
- ・「エアフィルターと吸排気口を清掃する」 p.73
- ・「エアフィルターを交換する」 p.73

エアフィルターと吸排気口を清掃する

エアフィルターおよび吸排気口は、汚れたときや掃除を促すメッセージが表示されたときに掃除してください。

- 1** 本機の電源を切り、電源コードを抜きます。

- 2** コンピューター用の小型掃除機か、柔らかいブラシでホコリを丁寧に取り除きます。



エアフィルターは取り外しできるため、両面を掃除できます。エアフィルターは水洗いできません。洗剤や溶剤も使わないでください。

注意

エアダスターは使用しないでください。可燃性の物質が残留したり、精密部分にホコリが入り込むおそれがあります。

- 3** 掃除をしても頻繁にメッセージが表示される場合は交換時期です。新しいエアフィルターに交換してください。

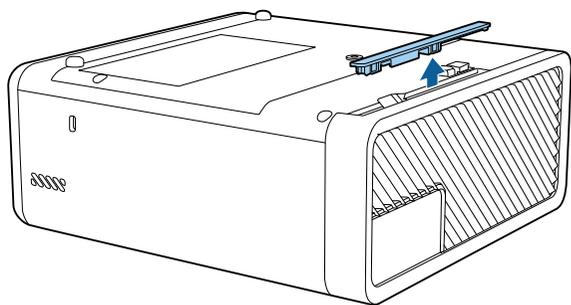
エアフィルターを交換する

以下の場合、エアフィルターを交換してください。

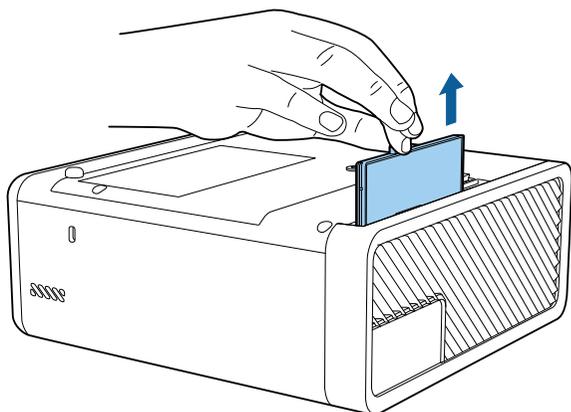
- ・エアフィルターの清掃後に、清掃または交換することを促すメッセージが表示される
- ・エアフィルターが破損している

本機は天吊り設置したままでもエアフィルターの交換ができます。

- 1** 本機の電源を切り、電源コードを抜きます。
- 2** 底面を上にしてします。
- 3** エアフィルターカバーを開けます。



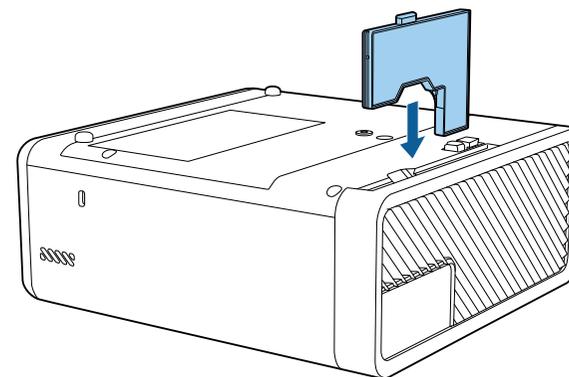
- 4** プロジェクターからエアフィルターを抜き出します。



使用済みのエアフィルターは、地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。

- ・ フィルターの枠：ABS
- ・ フィルター：ポリウレタンフォーム

- 5** 新しいエアフィルターを差し込み、カチッと音がするまで丁寧に押し込みます。



- 6** エアフィルターカバーを閉めます。

▶ 関連項目

- ・ 「消耗品」 [p.89](#)

困ったときに

想定されるトラブルと、その対処方法について説明します。

▶ 関連項目

- ・ 「トラブルの対処方法」 [p.76](#)
- ・ 「インジケータの見方」 [p.77](#)
- ・ 「電源に関するトラブル」 [p.79](#)
- ・ 「映像に関するトラブル」 [p.80](#)
- ・ 「音声に関するトラブル」 [p.84](#)
- ・ 「Bluetoothに関するトラブル」 [p.85](#)
- ・ 「リモコン操作に関するトラブル」 [p.86](#)
- ・ 「HDMIリンクに関するトラブル」 [p.87](#)

プロジェクターが正しく動作しないときは、一度電源を切り、電源コードを差し直してから再度電源を入れます。

問題が解決しないときは、以下を確認します。

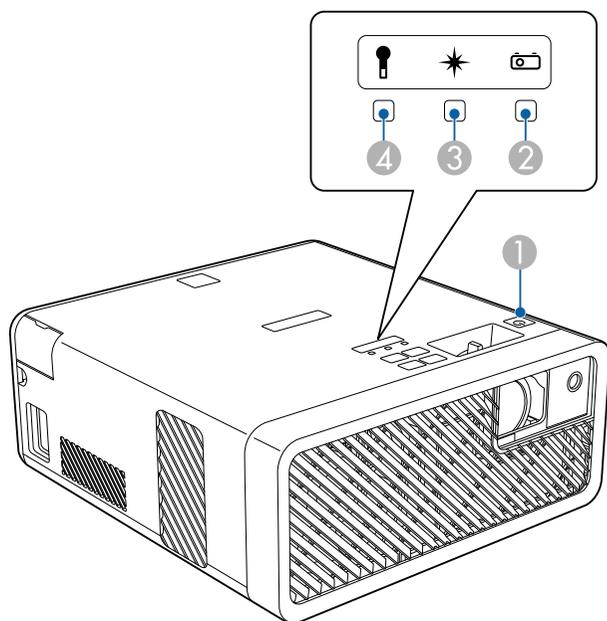
- ・インジケーターで本機の状態を確認する。
- ・本書のトラブル一覧で対処方法を確認する。

問題が解決しないときは、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

インジケータは、本機の状態をお知らせします。インジケータの色と状態を確認し、以下の表から対処方法を確認してください。



- 各インジケータがこの表にない状態のときは、ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。



- ① 電源インジケータ
- ② ステータスインジケータ
- ③ レーザーインジケータ
- ④ 温度インジケータ

プロジェクターの状態

インジケータの状態	状態と対処方法
電源：青点灯 ステータス：青点灯 レーザー：消灯 温度：消灯	投写中の状態です。
電源：青点灯 ステータス：青点滅 レーザー：消灯 温度：消灯	ウォームアップ中またはシャットダウン中です。 ウォームアップ中の場合は、約30秒経つと映像が表示されます。 ウォームアップ中、シャットダウン中は、すべてのボタン操作が無効になります。
電源：青点灯 ステータス：消灯 レーザー：消灯 温度：消灯	スタンバイ状態またはスリープモードです。 電源ボタンを押すと、投写を開始します。
電源：青点滅 ステータス：消灯 レーザー：消灯 温度：消灯	[スタンバイ時USB給電] モードの準備状態です。
電源：青点灯 ステータス：青点滅 レーザー：消灯 温度：消灯	クールダウン中です。すべてのボタン操作が無効になります。

インジケータの状態	状態と対処方法
電源：青点滅 ステータス：状態依存 レーザー：状態依存 温度：橙点滅	内部温度が高くなっています。 <ul style="list-style-type: none"> エアフィルターや排気口がふさがれていないか、周辺の物や壁で通気が妨げられていないか確認します。 エアフィルターが目詰まりしているときは、掃除または交換します。 高温にならない環境で使用するようにします。
電源：消灯 ステータス：青点滅 レーザー：消灯 温度：橙点灯	内部高温異常（オーバーヒート）状態です。自動的に消灯し、投写できなくなります。電源を切った状態で5分間待ち、温度を下げます。 <ul style="list-style-type: none"> エアフィルターや排気口がふさがれていないか、周辺の物や壁で通気が妨げられていないか確認します。 高温にならない環境で使用するようにします。 エアフィルターが目詰まりしているときは、掃除または交換します。 標高1,500m以上の場所でお使いのときは、[高地モード]を[オン]にします。  [設定] > [設置] > [高地モード] 問題が解決しないときは、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
電源：青点滅 ステータス：状態依存 レーザー：橙点滅 温度：状態依存	レーザー警告です。 ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
電源：消灯 ステータス：青点滅 レーザー：橙点灯 温度：消灯	レーザー異常です。 ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

インジケータの状態	状態と対処方法
電源：消灯 ステータス：青点滅 レーザー：消灯 温度：橙点滅	ファン異常またはセンサー異常状態です。ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
電源：消灯 ステータス：青点滅 レーザー：橙点滅 温度：消灯	内部異常状態です。ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

▶ 関連項目

- 「設定メニュー」 [p.63](#)
- 「エアフィルターと吸排気口を清掃する」 [p.73](#)
- 「エアフィルターを交換する」 [p.73](#)

電源に関するトラブルの対処方法を確認してください。

▶ 関連項目

- ・「電源が入らない」 [p.79](#)
- ・「予期せず電源が切れる」 [p.79](#)

電源が入らない

電源ボタンを押しても本機の電源が入らないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** 次の点を確認します。
 - ・ リモコンの電池を確認します。
 - ・ 電源コードが本機とコンセントに確実に接続されていることを確認します。
- 2** ロック機能を解除します。
 - ・ [操作ボタンロック] を解除するには、操作パネルの  ボタンを約7秒間押し続けます。
 - ・ [チャイルドロック] を解除するには、操作パネルの電源ボタンを約3秒間押し続けます。
- 3** 電源コードを抜いて、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

▶ 関連項目

- ・「セキュリティ機能」 [p.56](#)

予期せず電源が切れる

本機の光源が予期せず消えるときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** 一定時間操作が行われなかったため、スリープモードになっている可能性があります。いずれかのボタンを押して、スリープモードから復帰します。スリープモードを無効にするには、[スリープモード] を [オフ] にします。
 - [設定] > [動作] > [スリープモード]
- 2** ステータスインジケータが点滅し、温度インジケータが点灯しているときは、本機の内部高温異常（オーバーヒート）で電源がオフになっています。



プロジェクターの設定によって、スタンバイ状態でもファンが回転することがあります。また、スタンバイ状態から電源をオンにしたときに、ファンが大きな音を立てて回転することがありますが、異常ではありません。

▶ 関連項目

- ・「設定メニュー」 [p.63](#)

投写映像に関するトラブルの対処方法を確認してください。

▶ 関連項目

- ・「映像が表示されない」 p.80
- ・「映像がゆがむ」 p.81
- ・「映像がぼやける」 p.81
- ・「映像の一部が表示されない」 p.81
- ・「映像にノイズが入る、乱れる」 p.82
- ・「映像の明るさや色合いが違う」 p.82
- ・「映像が上下反転して表示される」 p.83

映像が表示されない

映像が表示されないときは、次の対処方法を確認してください。

1 本機の状態を確認します。

- ・ リモコンの  ボタンを押して、映像が一時的に消されていないか確認します。
- ・ インジケーターの色と状態を確認します。
- ・ スタンバイ状態、スリープモードから復帰するには、本機の電源ボタンを押します。また、接続されたコンピューターがスリープ状態でないか、黒一色のスクリーンセーバーが表示されていないか確認します。

☛ [設定] > [動作] > [スリープモード]

2 ケーブルの接続を確認します。

- ・ 必要なケーブルがすべて接続されていること、本機の電源が入っていることを確認します。
- ・ 本機とビデオ機器を直接接続してください。
- ・ HDMIケーブルが長いときは、短いケーブルで接続します。

3 ビデオ機器の状態を確認します。

- ・ メディアストリーミング端末から投写するときは、USB給電ケーブルが正しく接続されていることを確認します。
- ・ メディアストリーミング端末やビデオ機器の電源が入っていることを確認し、再生ボタンを押してコンテンツを再生してみます。
- ・ 接続機器がHDMI CEC規格に準拠しているか確認します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- ・ ノート型コンピューターから投写するときは、コンピューターの画面出力を切り替えて、プロジェクターに映像を表示します。

4 次の点を確認します。

- ・ 本機、および接続されたメディアストリーミング端末やビデオ機器の電源を一度切ってから、再度電源を入れます。
- ・ ビデオ機器のCEC電源連動機能を有効にして、電源を入れ直します。
- ・ コンピューターのディスプレイ解像度が本機の対応解像度、周波数と合っているか確認します。必要に応じて、コンピューターのディスプレイ解像度を変更します。（詳しくはお使いのコンピューターの取扱説明書をご覧ください。）
- ・ 本機のすべての設定を初期化します。

☛ [初期化] > [全初期化]

▶ 関連項目

- ・ 「設定メニュー」 p.63
- ・ 「初期化メニュー」 p.68

映像がゆがむ

投写画面がゆがむときは、次の対処方法を確認してください。

- 1 投写面に対してプロジェクターを平行に設置します。
- 2 [台形補正] で映像のゆがみを補正します。
 - ☛ [設定] > [台形補正] > [タテヨコ]
 - ☛ [設定] > [台形補正] > [Quick Corner]

▶ 関連項目

- ・「設定メニュー」 [p.63](#)
- ・「台形補正ボタンで映像のゆがみを補正する」 [p.34](#)
- ・「Quick Corner機能で映像のゆがみを補正する」 [p.35](#)

映像がぼやける

投写映像がぼやけるときは、次の対処方法を確認してください。

- 1 フォーカスレバーで映像のピントを合わせます。
- 2 次の点を確認します。
 - ・ 投写距離の推奨範囲内に設置します。
 - ・ 映像の高さ調整のために本機の傾斜角度を大きくすると映像がゆがみます。傾斜角度を小さくして台形補正の調整値を小さくします。
- 3 本機の投写窓を掃除します。



寒い場所から暖かい場所に持ち込んだときは、レンズの表面が結露して映像がぼやけることがあります。お使いになる1時間くらい前に本機を設置するようにします。

- 4 [画質・映像] メニューで [シャープネス] を調整して、投写映像の画質を上げます。
- 5 コンピューターから映像を投写しているときは、解像度を下げるか、本機の解像度に合わせて解像度を変更します。

▶ 関連項目

- ・「画質・映像メニュー」 [p.61](#)
- ・「フォーカスレバーで映像のピントを調整する」 [p.37](#)
- ・「投写窓を清掃する」 [p.71](#)

映像の一部が表示されない

コンピューターの映像が部分的にしか表示されないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1 [ズーム] 設定で映像を拡大/縮小したときは、映像全体が表示されるまで  ボタンを押します。
- 2 正しい設置モードを選択していることを確認します。[設定] メニューの [設置モード] で選択できます。
 - ☛ [設定] > [設置] > [設置モード]
- 3 コンピューターのディスプレイ設定でデュアルディスプレイが無効になっているか、本機の対応解像度に合った設定がされているか確認します。（詳しくはお使いのコンピューターの取扱説明書をご覧ください。）

▶ 関連項目

- ・「設定メニュー」 p.63

映像にノイズが入る、乱れる

投写映像に電子的な干渉（ノイズ）や妨害が入るときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** 本機とビデオ機器を接続しているケーブルの状態を確認します。ケーブルが以下の状態であることを確認してください。
 - ・ 干渉を受けないように、電源コードから離れている
 - ・ ケーブルの両端が確実に接続されている
 - ・ 延長ケーブルを使用していない
- 2** 映像のゆがみを補正したときは、[画質・映像]メニューで[シャープネス]を低い値に設定して、投写映像の画質を向上させます。
- 3** 延長ケーブルを使用して電源に接続しているときは、延長ケーブルを使わずに投写して、映像にノイズが入らないか確認します。
- 4** コンピューターのディスプレイ解像度やリフレッシュレートが本機の対応解像度、リフレッシュレートと合っているか確認します。
- 5** Bluetoothオーディオ機器を接続しているときは、次の対処方法を確認してください。
 - ・ Bluetoothオーディオ機器と本機の間には障害物がないかを確認し、電波状況がよくなるようにそれらの位置を変更します。
 - ・ Bluetoothオーディオ機器が離れすぎているか確認します。

- ・ 電子レンジ、2.4 GHz帯の周波数を使用するコードレス電話や無線機器などの近くで本機を使用しないでください。
電波干渉が発生することがあります。

▶ 関連項目

- ・「画質・映像メニュー」 p.61

映像の明るさや色合いが違う

投写映像が暗すぎたり明るすぎるとき、また色合いが正しく表示されないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** リモコンの  ボタンを押して、映像と投写環境に合うカラーモードを選択します。
- 2** お使いのビデオ機器の設定を確認します。
- 3** [画質・映像]メニューで[明るさ]、[コントラスト]、[色合い]、[色の濃さ]などを設定します。
 - ☛ [画質・映像] > [明るさ設定]
 - ☛ [画質・映像] > [色設定]
- 4** [画質・映像]メニューで[HDMIビデオレンジ]を正しく設定します。
 - ☛ [画質・映像] > [HDMIビデオレンジ]
- 5** 必要なケーブルが本機とビデオ機器に確実に接続されていることを確認します。ケーブルが長いときは、短いケーブルで接続します。

6 投写距離の推奨範囲内に設置します。

▶ **関連項目**

- ・ 「画質・映像メニュー」 [p.61](#)

映像が上下反転して表示される

正しい設置モードを選択します。

☛ [設定] > [設置] > [設置モード]

▶ **関連項目**

- ・ 「設定メニュー」 [p.63](#)

音が出ない、小さすぎるなどの問題があるときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** 操作パネルまたはリモコンの  ボタンまたは  ボタンを押して音量を調整します。
- 2** 本機とビデオ機器のケーブルが正しく接続されているか確認します。
- 3** 本機の以下の設定を確認します。
 - 一時的に映像と音声を消したときは、リモコンの  ボタンを押して、映像と音声を再開します。
 - 本機のスピーカーやヘッドフォンから音声を出力するときは、[Bluetoothオーディオ] を [オフ] に設定します。
 - Bluetoothオーディオ機器から音声を出力するときは、[Bluetoothオーディオ] を [オン] に設定します。

☛ [設定] > [サウンド] > [Bluetooth] > [Bluetoothオーディオ]
- 4** ビデオ機器の以下の設定を確認します。
 - メディアストリーミング端末、ビデオ機器の音量が大きくなっているか、音声出力が正しく設定されているか確認します。
 - 接続機器の音声出力をPCMに設定します。
 - MacとプロジェクターをHDMIケーブルで接続していて音が出ないときは、MacがHDMI端子からの音声出力に対応しているか確認します。

5 Bluetoothオーディオ機器を接続しているときは、次の対処方法を確認してください。

- Bluetoothオーディオ機器と本機の間には障害物がないかを確認し、電波状況がよくなるようにそれらの位置を変更します。
- Bluetoothオーディオ機器が離れすぎていないか確認します。
- 電子レンジ、2.4 GHz帯の周波数を使用するコードレス電話や無線機器などの近くで本機を使用しないでください。
電波干渉が発生することがあります。

▶ 関連項目

- 「設定メニュー」 [p.63](#)

Bluetoothオーディオ機器を接続できないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** Bluetoothオーディオ機器が著作権保護（SCMS-T）やA2DPに対応していることを確認します。
- 2** [設定] メニューで [Bluetooth機器検索] を選択して、接続するBluetoothオーディオ機器を検索します。
 - ☛ [設定] > [サウンド] > [Bluetooth] > [Bluetooth機器検索]

▶ 関連項目

- ・「設定メニュー」 [p.63](#)

本機がリモコン操作に反応しないときは、次の対処方法を確認してください。



リモコンを紛失したときは、新たにリモコンをお買い求めいただけます。

- 1** リモコンの電池が正しくセットされていること、電池が切れていないことを確認します。必要に応じて、電池を交換します。
- 2** リモコンのボタンが押し込まれた状態になっていないか確認します。その状態ではリモコンが操作できないことがあります。ボタンを元の状態に戻してください。
- 3** リモコン信号が届く距離、角度からリモコンを操作します。
- 4** 本機がウォームアップ中またはシャットダウン中でないか確認します。
- 5** 蛍光灯の強い光、直射日光、赤外線機器の信号が、本機のリモコン受光部に干渉することがあります。照明の明るさを落とす、または直射日光や赤外線干渉を避けられる場所に本機を移動してください。

▶ 関連項目

- ・ 「リモコンを操作する」 [p.24](#)

HDMIリンクで接続機器を操作できないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** お使いのケーブルがHDMI CEC規格に準拠しているか確認します。
- 2** 接続機器がHDMI CEC規格に準拠しているか確認します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- 3** 接続機器が [接続機器一覧] に表示されているか確認します。
HDMI CEC規格に準拠していない機器は [接続機器一覧] に表示されません。HDMI CEC規格に準拠した機器をお使いください。
☛ [設定] > [動作] > [HDMIリンク] > [接続機器一覧]
- 4** HDMIリンクを使うために必要なケーブルがすべて接続されていることを確認します。
- 5** 接続機器の電源がスタンバイ状態になっているか確認します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- 6** 新しく機器を接続したり、接続を変更した後に操作できないときは、接続機器のCEC機能を設定し直して、再起動します。

▶ 関連項目

- ・「設定メニュー」 [p.63](#)

付録

本機の仕様や使用上の注意事項については、以下の項目をご確認ください。

▶ 関連項目

- ・ 「オプション・消耗品一覧」 [p.89](#)
- ・ 「スクリーンサイズと投写距離」 [p.90](#)
- ・ 「対応解像度」 [p.92](#)
- ・ 「本機仕様」 [p.93](#)
- ・ 「外形寸法図」 [p.94](#)
- ・ 「安全規格対応シンボルマークと説明」 [p.95](#)
- ・ 「レーザー製品を安全にお使いいただくために」 [p.97](#)
- ・ 「用語解説」 [p.98](#)
- ・ 「一般のご注意」 [p.99](#)

下記のオプション・消耗品を用意しています。用途に合わせてお買い求めください。

これらのオプション品は2018年12月現在のものです。

予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

▶ 関連項目

- ・「設置用金具」 [p.89](#)
- ・「消耗品」 [p.89](#)

設置用金具

天吊り / 床置き金具 **ELPMB60**

天井や壁、床に取り付けるときに使用します。

配線ダクト取付金具 **ELPMB61**

配線ダクトに取り付けるときに使用します。



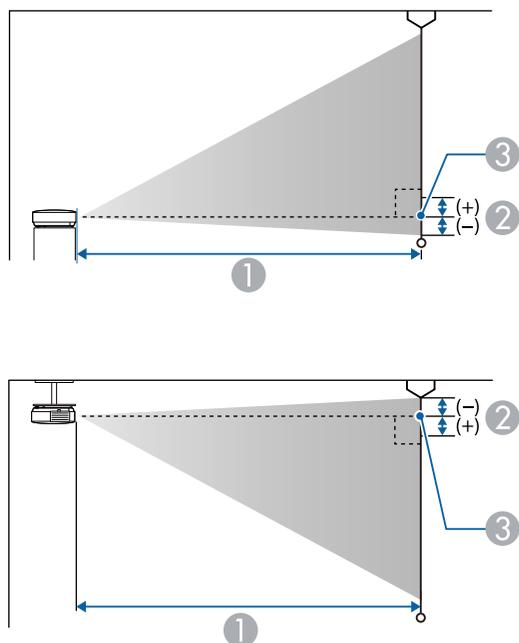
天吊り設置には特別な技術が必要です。詳細はお買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

消耗品

エアフィルター **ELPAF57**

使用済みエアフィルターと交換します。

この表に従って、スクリーンからプロジェクターまでの距離を、投写映像の大きさに応じて決めます。



- ① 投写距離 (cm)
- ② レンズ中心からスクリーン下端 (天吊りの場合はスクリーン上端) までの高さ (cm)
- ③ レンズ中心

16:10スクリーンサイズ		①	②
		最短 (ワイド) ~ 最長 (テレ)	
30型	65 × 40	65 - 88	-4
40型	86 × 54	88 - 119	-5

16:10スクリーンサイズ		①	②
		最短 (ワイド) ~ 最長 (テレ)	
50型	108 × 67	111 - 150	-6
60型	129 × 81	134 - 181	-7
80型	172 × 108	180 - 243	-10
90型	194 × 121	203 - 274	-11
100型	215 × 135	226 - 305	-12
120型	258 × 162	272 - 368	-15
130型	280 × 175	295 - 399	-16
150型	323 × 202	341 - 461	-18

4:3スクリーンサイズ		①	②
		最短 (ワイド) ~ 最長 (テレ)	
30型	61 × 46	74 - 100	-4
40型	81 × 61	100 - 136	-6
50型	102 × 76	126 - 171	-7
60型	122 × 91	152 - 206	-8
70型	142 × 107	179 - 241	-10
80型	163 × 122	205 - 276	-11
90型	183 × 137	231 - 311	-12
100型	203 × 152	257 - 347	-14
110型	224 × 168	283 - 382	-15
120型	244 × 183	309 - 417	-17
130型	264 × 198	335 - 452	-18

16:9スクリーンサイズ		①	②
		最短（ワイド）～最長（テレ）	
30型	66 × 37	67 - 91	-2
40型	89 × 50	91 - 123	-2
50型	111 × 62	114 - 154	-3
60型	133 × 75	138 - 186	-3
70型	155 × 87	162 - 218	-4
80型	177 × 100	185 - 250	-5
90型	199 × 112	209 - 282	-5
100型	221 × 125	233 - 314	-6
110型	244 × 137	256 - 346	-6
120型	266 × 149	280 - 378	-7
130型	288 × 162	304 - 410	-7

信号	リフレッシュレート (Hz)	解像度 (ドット)
VGA	60	640 × 480
SDTV (480i/480p)	59.94	720 × 480
SDTV (576i/576p)	50	720 × 576
HDTV (720p)	50/59.94/60	1280 × 720
HDTV (1080i)	50/59.94/60	1920 × 1080
HDTV (1080p)	23.98/24/29.97/30/50/59.94/60	1920 × 1080

商品名	EF-100W/EF-100B
外形サイズ	幅210 × 高さ88 × 奥行き227 mm (突起部を含まず)
液晶パネルサイズ	0.59"
表示方式	ポリシリコンTFT アクティブマトリクス
解像度	1,024,000 ピクセル WXGA (横1,280 × 縦800ドット) × 3
フォーカス調整	手動
ズーム調整	1.0 - 1.35 (デジタル)
光源	レーザーダイオード
光源出力	最大43 W
波長	449 - 461nm
光源寿命	レーザーライト出力が100%の場合：最大約12,000時間 レーザーライト出力が50%の場合：最大約20,000時間
音声最大出力	5 W
スピーカー	1個
電源	100-240V AC±10% 50/60Hz 1.8 - 0.9 A
消費電力 (100-120V エリア)	動作時：178 W
消費電力 (220-240V エリア)	動作時：172 W
待機時消費電力	0.4 W
動作高度	標高 0~3,000 m
動作温度範囲	標高 0~2,286 m：+5~+35°C (結露しないこと) 標高 2,287~3,000 m：+5~+30°C (湿度20~80%、結露しないこと)

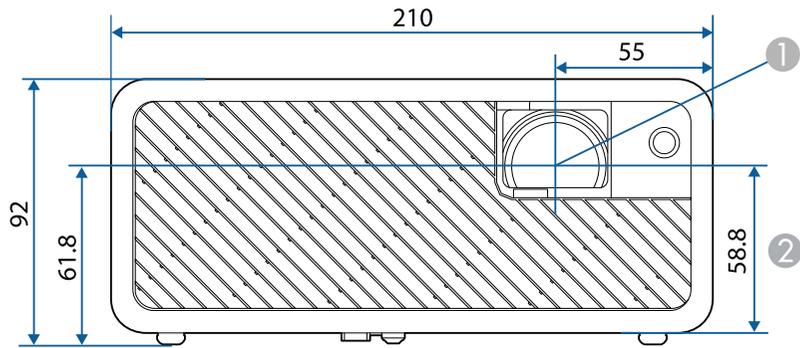
保存温度範囲	-10~+60°C (湿度10~90%、結露しないこと)
質量	約2.7kg

▶ 関連項目

- ・ 「接続端子」 [p.93](#)

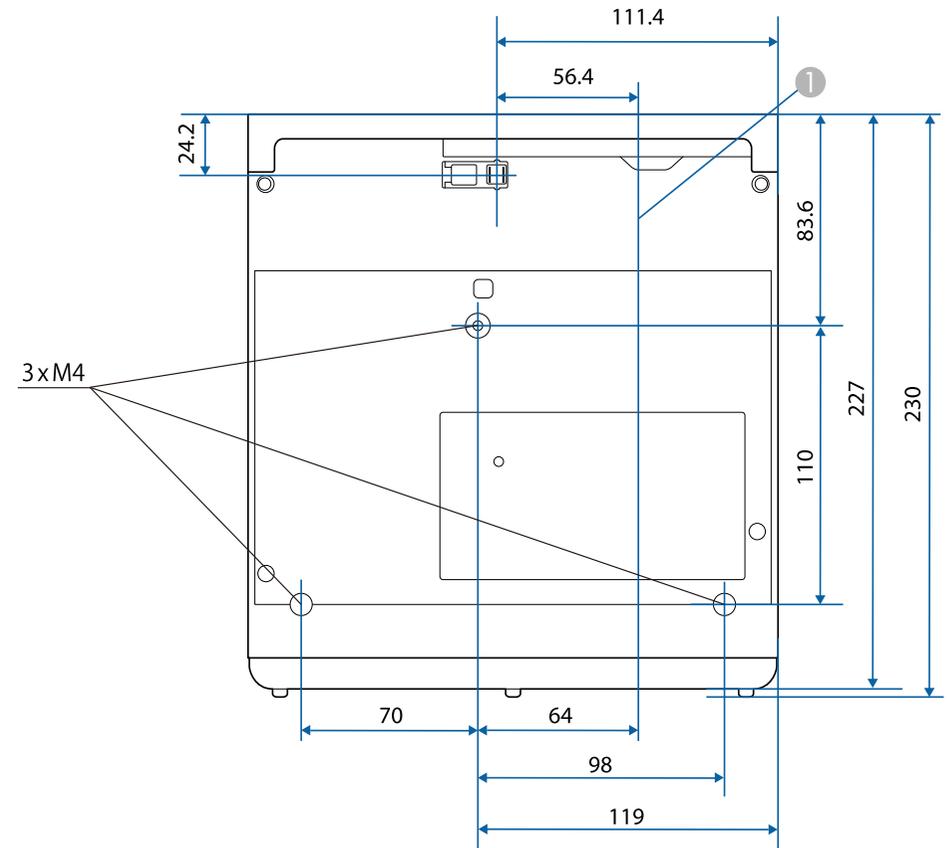
接続端子

Audio Out端子	1系統	ステレオミニピンジャック
HDMI端子	1系統	HDMI (音声はPCMにのみ対応)
USB-A端子	1系統	USBコネクタ (Aタイプ)
Service端子	1系統	USBコネクタ (Bタイプ)



① レンズ中心

② レンズ中心から天吊り固定部までの寸法

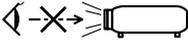


単位：mm

製品上にシンボルマークが表示されている場合は、それぞれ以下の意味を持っています。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
①		IEC60417 No.5007	電源ON 電源への接続を示す。
②		IEC60417 No.5008	電源OFF 電源からの切り離しを示す。
③		IEC60417 No.5009	スタンバイ 機器・装置の一部だけを通電状態にし、機器・装置を待機状態にするためのスイッチまたはその位置を示す。
④		ISO7000 No.0434B, IEC3864-B3.1	注意 製品取扱時の全般的な注意を示す。
⑤		IEC60417 No.5041	注意（高温） 高温の可能性があり、不注意に触れない方がよい箇所であることを示す。
⑥		IEC60417 No.6042 ISO3864-B3.6	注意（感電危険） 感電（電撃）の危険性がある機器・装置であることを示す。
⑦		IEC60417 No.5957	屋内専用 屋内使用専用を目的とする電気機器・装置であることを表す。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
⑧		IEC60417 No.5926	直流電源コネクタ極性 直流電源を接続してもよい機器のプラスおよびマイナス電極の接続を示す。
⑨		—	No.8と同じ
⑩		IEC60417 No.5001B	電池（一般） 電池を電源とする機器・装置に使用する。電池装着部分のカバーまたは接続端子を示す。
⑪		IEC60417 No.5002	電池の向き 電池ケース本体および電池ケース内での向きを示す。
⑫		—	No.11と同じ
⑬		IEC60417 No.5019	保護接地 障害発生時の電撃（感電）保護用外部導体への接続端子または保護接地極の端子であることを示す。
⑭		IEC60417 No.5017	アース No.13の使用が明示的に要請されない場合の接地（アース）端子であることを示す。
⑮		IEC60417 No.5032	交流 交流専用の機器・装置であり、交流に対応する端子であることを示す。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
16		IEC60417 No.5031	直流 直流専用の機器・装置であり、直流に対応する端子であることを示す。
17		IEC60417 No.5172	クラスII 機器 JIS C 9335-1/JIS C 8105-1でクラスII 機器と規定した安全性要求事項に適合する機器・装置であることを示す。
18		ISO 3864	一般的な禁止 特定しない一般的な禁止通告を示す。
19		ISO 3864	接触禁止 機器の特定の場所に触れることによって傷害が起こる可能性がある場合の禁止通告を示す。
20		—	プロジェクター動作中の投写レンズ覗きこみ禁止を示す。
21		—	プロジェクターの上に物を置いてはならないことを示す。
22		ISO3864 IEC60825-1	注意（レーザー放射） 製品上に注意が必要なレベルのレーザー放射部があることを示す。
23		ISO 3864	分解禁止 機器を分解することで感電などの傷害が起こる可能性がある場合の禁止通告を示す。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
24		IEC60417 No. 5266	待機、一部待機 機器・装置の一部が準備状態であることを示す。
25		ISO3864 IEC60417 No. 5057	注意（可動部品） 保護規定上、可動部品から離れなければならないことを示す。
26		IEC60417 No. 6056	注意（可動ファンのブレード） 保護規定上、可動部品から離れなければならないことを示す。
27		IEC60417 No. 6043	注意（鋭利な角） 保護規定上、鋭利な角には触れてはいけないことを指示する。
28		—	プロジェクター動作中の投写レンズ覗き込み禁止。

本機はJIS C 6802:2014に適合したクラス1レーザー製品です。以下の注意事項を必ず守ってご使用ください。

⚠ 警告

- 本機のケースを開けないでください。内部に高出力レーザー製品が組み込まれています。
- 本機の光源を直接見ないでください。強い光が視力障害などの原因となります。

⚠ 注意

本機を廃棄する場合は分解しないでください。国や地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。



- 本機的光源はレーザーを使用しています。レーザーには以下のような特性があります。
- 使用環境によって、光源の輝度が低下します。温度が高くなるほど、輝度の低下が大きくなります。
- 使用時間の経過にともない、光源の輝度が低下します。使用時間と輝度低下の関係は明るさ設定で変更できます。

▶ 関連項目

- 「レーザー警告ラベル」 [p.97](#)

レーザー警告ラベル

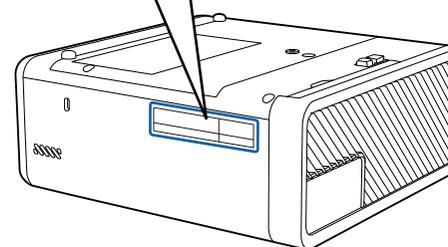
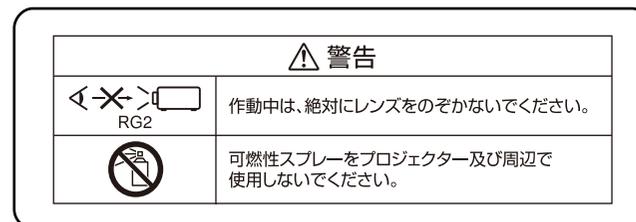
本機の内部および側面にはレーザー警告ラベルが貼られています。

内部



外部

投写中は、光源から放射されるレーザービームをのぞかないでください。(RG2 IEC/EN 62471-5:2015に準拠)



本書で使用している用語で、本文中に説明がないものや難しいものを簡単に説明します。詳細は市販の書籍などでご確認ください。

アスペクト比	画面の横と縦の比率をいいます。 横：縦の比率が16:9の、HDTVなどの画面をワイド画面といいます。 SDTVや、一般的なコンピューターのディスプレイのアスペクト比は4:3です。
コントラスト	色の明暗の差を強くしたり弱くしたりすることにより、文字や絵がはっきり見えたり、ソフトに見えたりすることです。この調整をコントラストの調整といいます。
HDCP	High-bandwidth Digital Content Protectionの略です。 DVIやHDMI端子を経由して送受信するデジタル信号を暗号化し、不正なコピーを防止する著作権保護技術です。 本機のHDMI端子はHDCPに対応しているため、HDCP技術で保護されたデジタル映像を投写できます。 ただし、HDCPの規格変更等が行われたときは、変更後の規格で保護されたデジタル映像を投写できなくなる場合があります。
HDMI™	High Definition Multimedia Interfaceの略で、デジタル家電やコンピューター向けの規格です。HD映像とマルチチャンネルオーディオ信号をデジタル伝送できます。 デジタル信号を圧縮せず高品質のまま転送できます。デジタル信号の暗号化機能もあります。
HDTV	High-Definition Televisionの略で、次の条件を満たす高精細なシステムに適用されます。 <ul style="list-style-type: none"> 垂直解像度720p、1080i以上（pはプログレッシブ走査、iはインターレース走査） 画面のアスペクト比は16:9

インターレース	1つの画面を作り出す情報を上から下へ1つ飛ばしに伝送します。 1フレームの表示が1ラインおきとなるため、ちらつき（フリッカー）が出やすくなります。
ペアリング	Bluetooth機器で接続するとき、相互に通信できるよう、あらかじめ機器を登録することです。
プログレッシブ	1つの画面を作り出す情報を一度で映し出して1フレーム分の映像を表示します。 そのため走査線の本数が同じでもインターレースと比べて時間あたりの情報量が2倍になるためちらつきが少ない映像になります。
リフレッシュレート	ディスプレイの発光体は、その明るさと色をごく短時間保持します。 そのため発光体をリフレッシュするために1秒間に何度も画像を走査しなければなりません。 その速度をリフレッシュレートと呼び、ヘルツ（Hz）で表します。
SDTV	Standard Definition Televisionの略で、HDTVの条件を満たさない標準テレビ放送のことです。
VGA	画面サイズの規格で、横640ドット×縦480ドットのことを呼びます。
WXGA	画面サイズの規格で、横1,280ドット×縦800ドットのことを呼びます。

本機をお使いの際の注意事項については、以下の項目をご確認ください。

▶ 関連項目

- ・「使用限定について」 p.99
- ・「本機を日本国外へ持ち出す場合の注意」 p.99
- ・「瞬低（瞬時電圧低下）基準について」 p.99
- ・「JIS C 61000-3-2適合品」 p.99
- ・「商標について」 p.99
- ・「ご注意」 p.100
- ・「著作権について」 p.100

使用限定について

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮いただいた上で当社製品をご使用いただくようお願いいたします。本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、医療機器など、極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途には本製品の適合性をお客様において十分ご確認のうえ、ご判断ください。

本機を日本国外へ持ち出す場合の注意

- ・日本国内向けの本製品を海外で利用した場合は、保証の対象外となります。国内で販売する本製品は、日本国内使用を意図した安全規格基準のみ対応しているため、日本国以外でのご使用は違法となる場合があります。また、国や地域によっては電波使用制限があるた

め、ネットワーク機能を海外で使った場合、罰せられることがあります。

- ・電源コードは日本国内向けの電源仕様に基づき同梱されています。本機を日本国以外でお使いになるときは、事前に使用する国の電源電圧や、コンセントの形状を確認し、その国の規格に適合した電源コードを現地にてお求めください。

瞬低（瞬時電圧低下）基準について

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。

商標について

「EPSON」はセイコーエプソン株式会社の登録商標です。「EXCEED YOUR VISION」、「ELPLP」はセイコーエプソン株式会社の登録商標または商標です。

Mac、Mac OS、OS X、macOSは、Apple Inc.の商標です。

Microsoft、Windows、Windows Vista、PowerPoint、Windows ロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標、または登録商標です。

HDMIとHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標、または登録商標です。 

Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、セイコーエプソン株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。

Bluetopia® is provided for your use by Stonestreet One, LLC® under a software license agreement. Stonestreet One, LLC® is and shall remain the sole owner of all right, title and interest whatsoever in and to Bluetopia® and your use is subject to such ownership and to the license agreement. Stonestreet One, LLC® reserves all rights related to Bluetopia® not expressly granted under the license agreement and no other rights or licenses are granted either directly or by implication, estoppel or otherwise, or under any patents, copyrights, mask works, trade secrets or other intellectual property rights of Stonestreet One, LLC®.

Qualcomm aptX is a product of Qualcomm Technologies, Inc. and/or its subsidiaries.

Qualcomm is a trademark of Qualcomm Incorporated, registered in the United States and other countries. aptX is a trademark of Qualcomm Technologies International, Ltd., registered in the United States and other countries.

©2000-2012 Stonestreet One, LLC® All Rights Reserved.

Adobe、Adobe ReaderはAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびにその他の国における商標または登録商標です。

なお、各社の商標および製品商標に対しては特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。

(3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万が一不審な点や誤り、お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。

(4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

(5) 本製品がお客様により不適當に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、またはエプソンおよびエプソン指定の者(「お問い合わせ先」参照)以外の第三者により、修理、変更されたこと等に起因して生じた損害等につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。

(6) エプソン純正品、およびエプソン品質認定品以外のオプション品または消耗品、交換部品を装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。

(7) 本書中のイラストや画面図は実際と異なる場合があります。

著作権について

本書の内容は予告なく変更することがあります。

©SEIKO EPSON CORPORATION 2018. All rights reserved.

2018.12 413748200JA

ご注意

(1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。

(2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。